★★別冊エースファイブコミックス★★



石原はるひこ初期傑作集

*Castle of sea gull*

# 海猫の城

エースファイブコミックス

海猫の城

初期傑作集



石原はるひこ

オハヨー出版

エースファイブ
コミックス

# 海猫の城

初期
傑作集



石原はるひこ

オハヨー出版

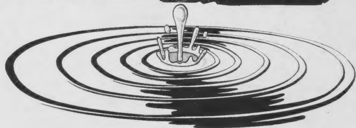
海猫の城

*Castle of sea gull*

雑誌51410—46
発行■オハヨー出版
定価**490**円

★★別冊エースファイブコミックス★★





石原はるひこ初期傑作集

*Castle of sea gull*

# 海猫の城

エースファイブコミックス

海猫の城

初期傑作集



石原はるひこ

オハヨー出版

エースファイブ
コミックス

# 海猫の城

初期
傑作集



石原はるひこ

オハヨー出版

海猫の城

*Castle of sea gull*

発行■オハヨー出版

# 海猫の城

うみねこ　しろ

*Castle of sea gull*



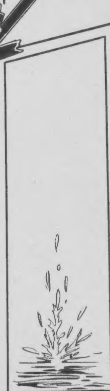
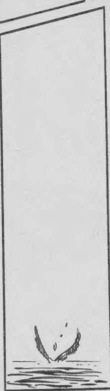
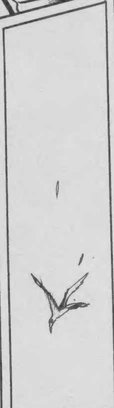
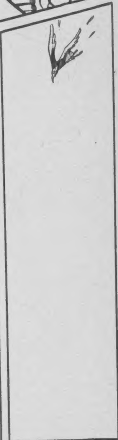
*Castle of sea gull*

## もくじ

# 海猫の城




ピァー
ピァー
ピァー
ピァー
ピァー



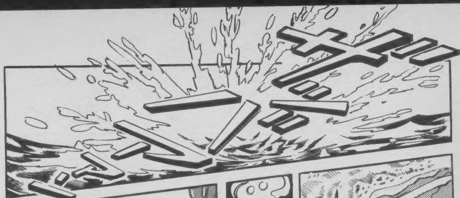
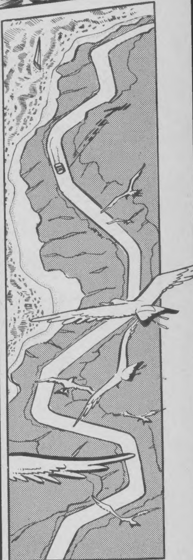


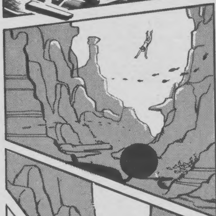
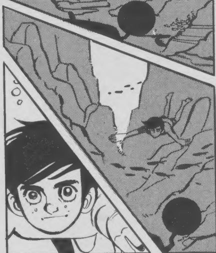






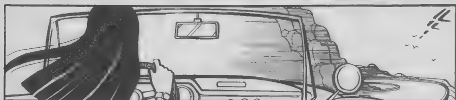
UMINEKO NO I

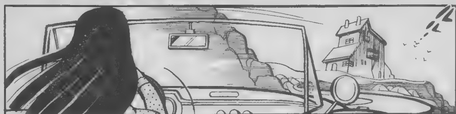



ポッ
ポコ
ポコ
ポコ
ポコ
ポッ
ポッ
ポッ



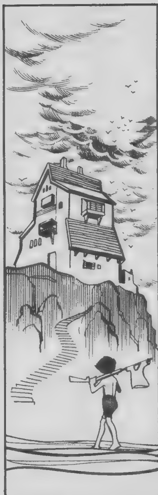


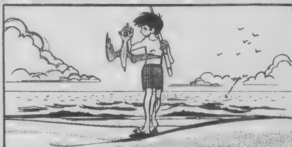
ブルルルルル‥

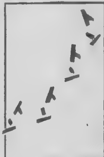

ルル


ルル


ルル




トン トン イン イン

明さま!!

東京からみえた新しい先生がおへやでおまちですよ!!

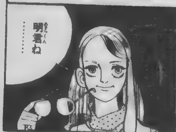

ゴロ
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ゴロ

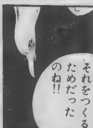

カチャン!







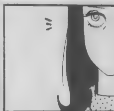

明君ね……


キミが、夏休みまえから学校をさぼっていたのは、

それをつくるためだったのね!!

おとうさまが心配してらしたわ……

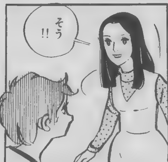
それにしても驚いたわ。
このハクセイ海猫には……

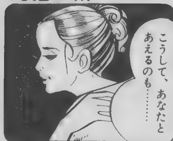
バサッ

パパがあなたに、家庭教師を頼んだのは、ボクを看視するため!?


ゴロゴロゴロ
ゴロゴロ

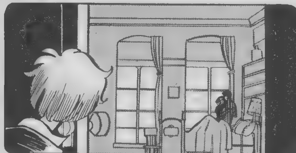
家庭教師というよりキミの友だちになりたいの。

友だち!?

そう!!


こうして、あなたとあえるのも……


このひと夏……


このひと夏……



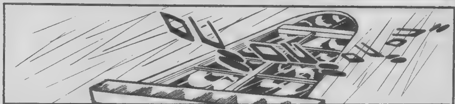

……このひと夏だけね……

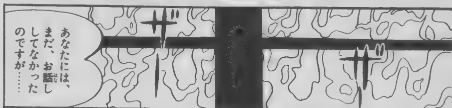


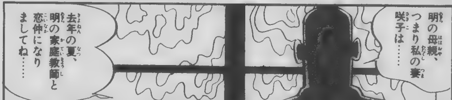

はなせよっ!!
女なんかきらいだ!!
でていけ!!

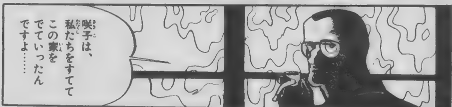

ガタン
ドン






ザー
ザー
あなたには、まだ、お話ししてなかったのですが……


明の母親、つまり私の妻咲子は……
去年の夏、明の家庭教師と恋仲になりましてね……

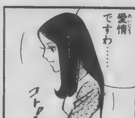

咲子は、私たちをすててこの家をでていったんですよ……


それいらい、明は人が変わったように無口になりましてね……


学校をさぼっちゃこの別荘にいりびたって……
以前は、虫も殺さなかった子が、あれほど好きだった海猫を殺してばかり……

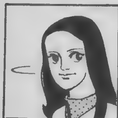

いったい、何を考えてるのか……
……


明には、できるだけのことはしてるつもりなんですがね……

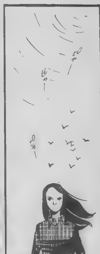

愛情ですわ……
コトッ


は!?


母親の愛情ですわ。明君にいま必要なものは……






どうしてそんなに海猫を殺すの!?


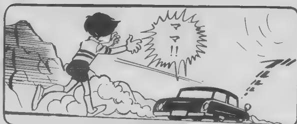
好きだから!?

好きだからさ……

カチャ

キミのママが逃げたように!?


フフフ……こうしときゃもう、どこへもいけやしないさ……



ママ!!
ブルルル……


そうさ!!
ママは、パパとボクをうらぎったんだ!!


ママ!!いっちゃいけない!!
その車でいっちゃいけない!!


ブル……


ぼくたちをすてたんだ!!

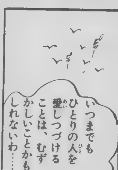



私の父が、私と母をすてたのは私の六歳の時よ……

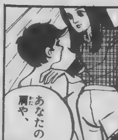


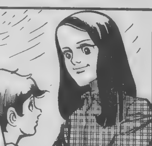

でも……しかたないのかもしれないわ……

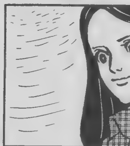
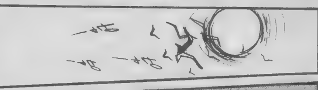

人は生きて動いているのだから……


いつまでもひとりの人を愛しつづけることは、むずかしいことかもしれないわ……


それがしょうこに……
あなただっていつまでも子どもじゃないわこれから、どんどん大きくなって変わっていくわ……

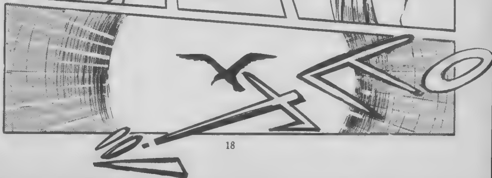

ほら、
いま
だって…

あなたの
肩や、

腕は強く
たくましく
なろうと
しているわ…


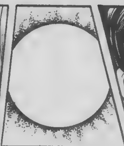
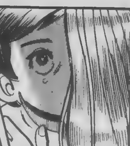



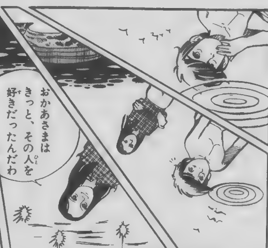
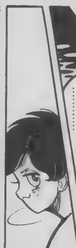
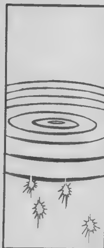








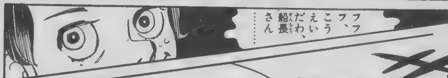



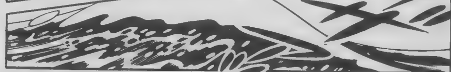


おかあさまはきっと、その人を好きだったんだわ……


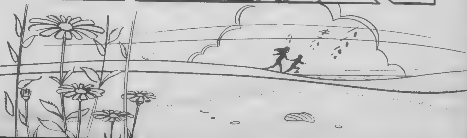
ねえ、老いた海猫はどこで死ぬと思う……
そうねえ、空……空かしら……

空の一番深いところで……


ちがうよ、海!!
海の深い所で静かに眠ってるんだ!!
だからこのヨットにはいままで、だれものせなかったんだよ。
時どきこのヨットにのってあいにいくんだ……


フフ、こうえいだわ、船長さん……






驚きましたよ、しばらくみないうちに明があんなに陽気になっているとは……

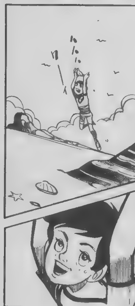

もっとも、私もふくめなきゃいけないかもしれないが……
ザ

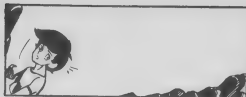
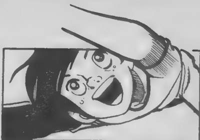

ザザ


ザザ
ザザ
ザザ


ザザ—ン







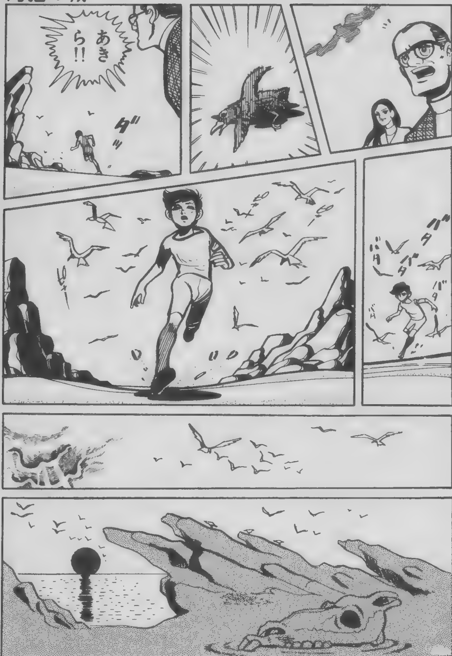
明……

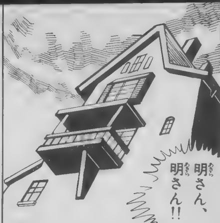




先生は、これから、明の新しいママになるんだよ………

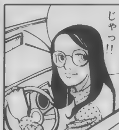



あきら!!
ダッ
ピャー
バタ
バタ
バタ
バタ
バタ

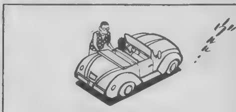

明さん、
明さん!!

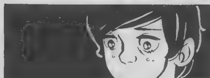

さっきまでここにいらしたんですがね……
もういいよ……

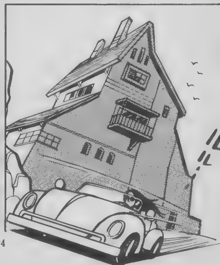

そちらに電話するよ。

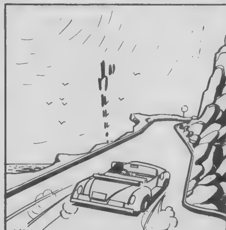

じゃっ!!



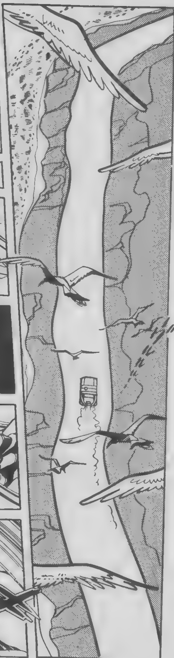


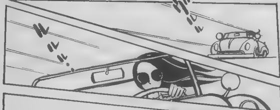


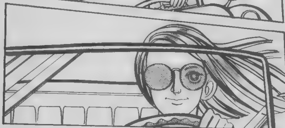




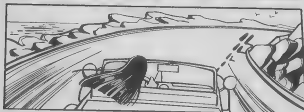


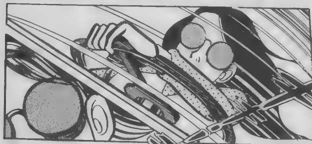


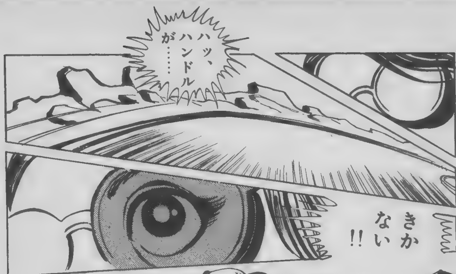
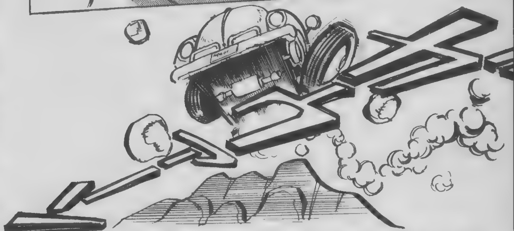


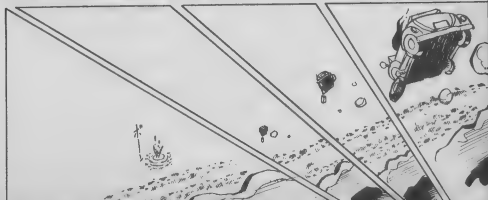


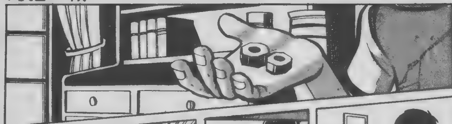






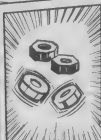

ハッ、ハンドルが……
きかない!!



ボー




コロン


コロコロ
コロ




パタン







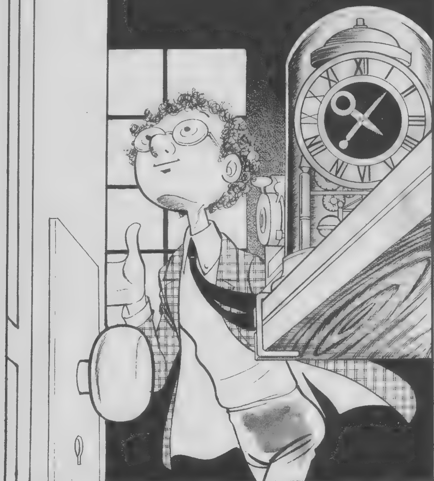
ピヤー
ピヤー

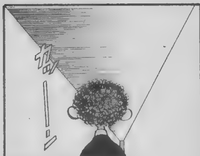
みんな
ボクの
ものさ……

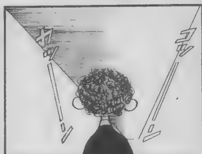
みんな
どこへも
いけやしない
んだ……

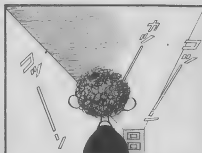
海猫の城／完

# 無機質同盟



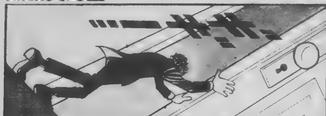

カッーン


コッーン
カッーン


コッーン
カッーン
コッーン

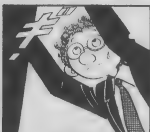

ピタ

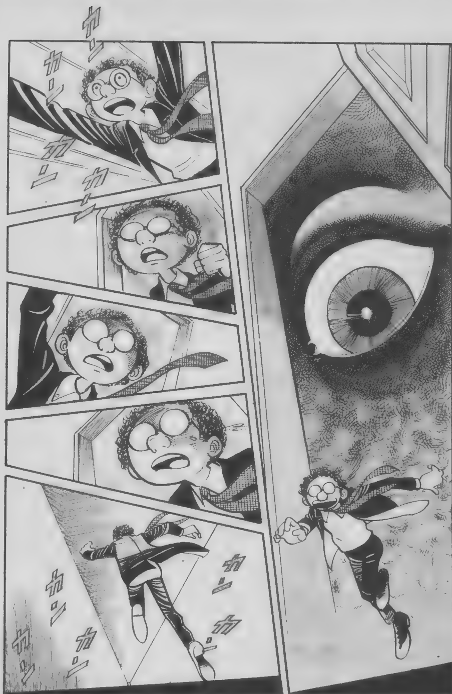


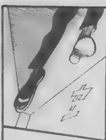

ギギー

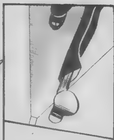

カチャ！

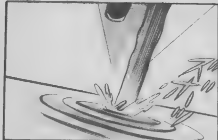


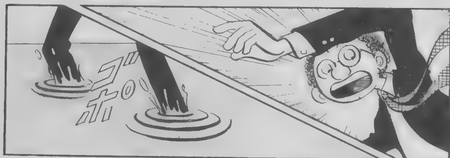

ギ


カーン
カーン
カーン
カーン
カーン
カーン
カーン
カーン
カーン

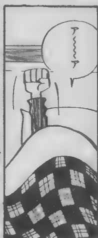

ガッ




ズボッ


ゴボ


ゴボ
ゴボ
ゴボ

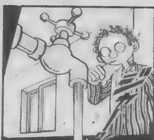

ア〜〜ア


たしか
へんてこな
夢を
みたような
気がするん
だがな
ポリポリ

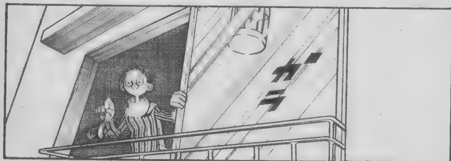

コッチ
WHISKY
いけねえ
ちこくだ

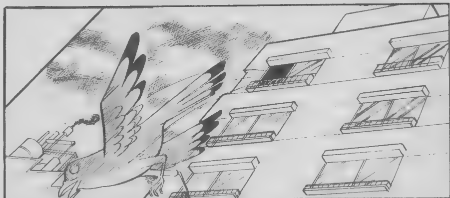
# 無機質同盟

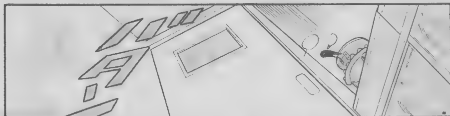


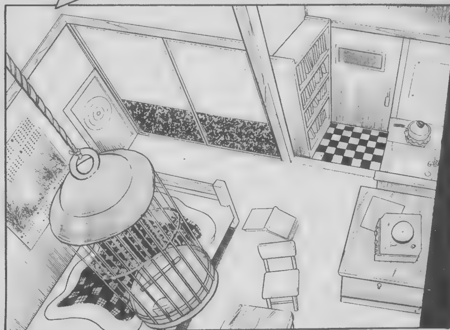




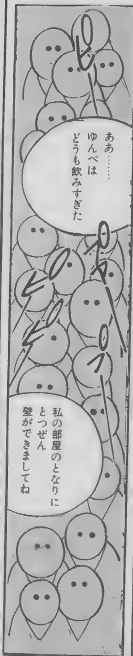






バタン




―市庁―

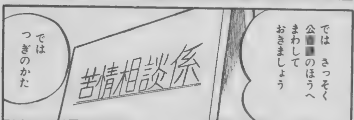

ああ……
ゆんべは
どうも飲みすぎた
私の部屋のとなりに
とつぜん
壁ができましてね



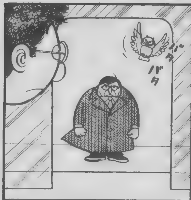


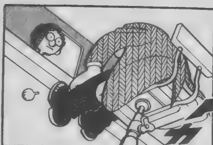

では
その工場の煙突からでるバイ煙でお困りなんですね


ええ そうなんです 洗たくものもまんぞくにほせない状態で……


では さっそく公[redacted]のほうへまわしておきましょう
では つぎのかた


バタバタ

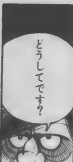

バタ バタ






どういうご相談でしょうか


きみは毎日正午すぎにこのビルの三階の西側の窓からとなりのビルをながめてますね

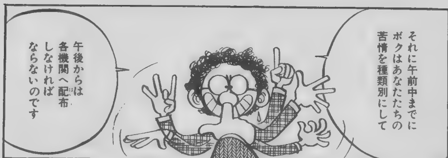

どうしてです?


どうしてってとくべつの理由はないのですが……
昼休みにただボンヤリと………


ところできみは生きるよろこびを感じていますか?

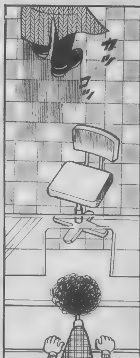


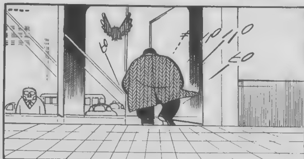

あの〜苦情を聞くのはボクの仕事なのですが……


それに午前中までに
ボクはあなたたちの
苦情を種類別にして
午後からは
各機関へ配布
しなければ
ならないのです

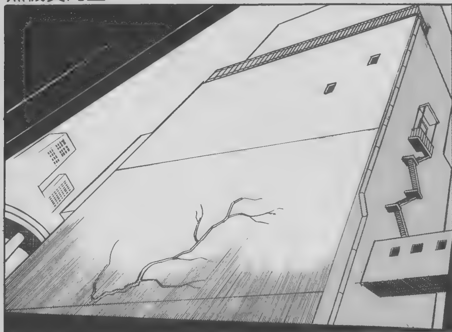

とにかく
いそがしいん!!
です
べつに
用件が
なければ
おひきとり
ください


ではまた

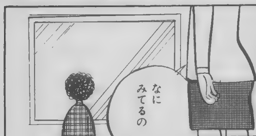





ねえ
どうしたの
なんでも
ないさ!
ときどき
ああいう時間を
もてあました
やつがくるんだよ






なに
みてるの


なんだ
きみか


いや
ただね…


ところで
きみ
あのビルを
みてなにも
感じないかい
どうして
べつに…

でも壁に大きな
ひびわれがあるのね

そう
あのひびわれをみていると
むきだしになった神経かなにかの
ようにみえないかい
そして　あのビルが病んだ灰色の巨大な
生き物かなにかのように……
ボクには　そうみえるんだ……

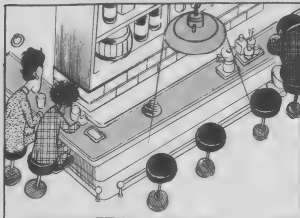
いやだわ
あなたすこし
おかしいん
じゃない

ところであなたの課の
角田さんの姿を
三　四日みないでしょ

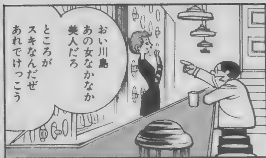
蒸発しちまったんじゃ
ないかって
みんないってるわ

このところ
多いんですってね
急に職場から
消えてしまう人……



# 無機質同盟


おい川島
あの女なかなか
美人だろ
ところが
スキなんだぜ
あれでけっこう


どうだい
いちど
アタック
してみては


あらなにが
おかしいの
いや


なんでも
ないよ


おや
これは
あ　黒曜石よ


へぇ
おれは石が好きなんだ
なぜかおちつくんだな
安心感というか
石には感情が
ないせいかな


感情がない?


べつに
石だけじゃないさ
おれたちだって
組織の中で
生きて
いくのには
あらゆる
感情を殺して
いかなきゃならないさ


あら
どうして
そんな
きゅうくつな
ことしなきゃ
ならないの

ようするに
おれたちには

人間さまのために
卵を産んで
はてには食われっちまう
鶏と同じさ
自分自身のためじゃなく
だれかのために生かされてるってことさ

だからといって
おりからでれば
逃げられるっていう
もんじゃなし

妻子のささやかな
幸福のために
ただじっとそういう
感情をおし殺して

まんぞくげな健康を
よそおって労働を
売ってるって
いうわけさ

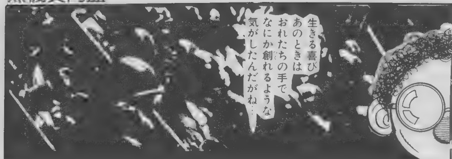
フフ
いっそのこと
石にでも
なっちまった
ほうが
らくかも
しれないさ

でも　石には
きっと
喜びは
ないと思うわ

カッ
コッ

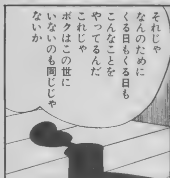
喜び……

カッ
コッ
コッ

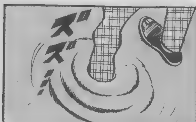

生きる喜び
あのときは
おれたちの手で
なにか創れるような
気がしたんだがね…


しかし……
現在じゃ…


この書類だって
作っても
まず実行される
ことは
ないのだから


それじゃ
なんのために
くる日もくる日も
こんなことを
やってるんだ
これじゃ
ボクはこの世に
いないのも同じじゃ
ないか


こ これじゃ
まるで
幽霊だ……


ズズ…!!


あああ


ズボ
ズボ
ズボ
ズボ


アア!!

あ

# 無機質同盟

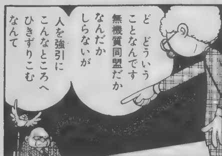



あ　あなたは

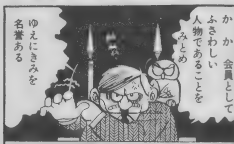

そ　それに
か　角田じゃないか


ここは
どこなんだ

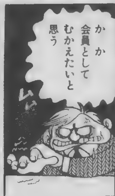

ここは
無機質同盟
第六支部
さ


ど　どういう
ことなんです
無機質同盟だか
なんだか
しらないが
人を強引に
こんなところへ
ひきずりこむ
なんて


きみは
われわれの
無機質同盟


かか　会員として
ふさわしい
人物であることを
みとめ
ゆえにきみを
名誉ある


無機質同盟

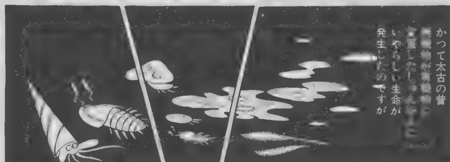

かか
会員として
むかえたいと
思う

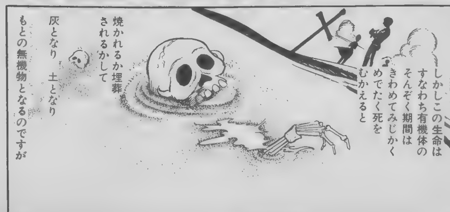

じ　じょうだんじゃ
ない……
ボ　ボクはこの同盟が
どういうものか
しらないし
こちらの意志を
無視しておむかえでも
ないでしょう


ごもっとも
我々は
生きることの
苦痛と
無意味さから
全人類を
解放しようとする
集団なのです


そう　解放です




かつて太古の昔
いやらしい生命が
発生したのですが


しかしこの生命は
すなわち有機体の
そんぞく期間は
きわめてみじかく
めでたく死を
むかえると
焼かれるか埋葬
されるかして
灰となり　土となり
もとの無機物となるのですが

# 無機質同盟


その後
それらの一部は
植物などの養分となり
人間の体に吸収される
可能性もあるわけで


我々はこの
循環運動を
破壊しこの
けがらわしき
有機状態を
拒否し


無機物として
永遠に生きて
いこうという
わけです


かってのわが
同志たちも
壁土と
なり
偉大なるわが父
ヒットラーも いまや
ドイツの片いなかで
コーヒーカップとなって
幸福にくらしておられる

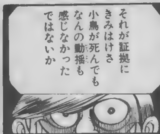


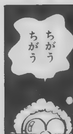

そ それじゃ
人間じゃなく
なるんですか

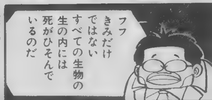

そう
人間と
いうより
生物では
なくなる
のです

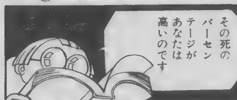


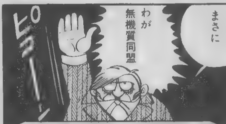

きみは気ずいて
ないかも
しれないが
きみは無意識に
死を指向している
のだよ
ま まさか


それが証拠に
きみはけさ
小鳥が死んでも
なんの動揺も
感じなかった
ではないか


ちがう
ちがう

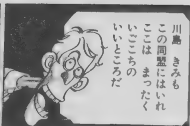

フフ
きみだけ
ではない
すべての生物の
生の内には
死がひそんで
いるのだ

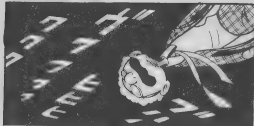

その死の
パーセン
テージが
あなたは
高いのです

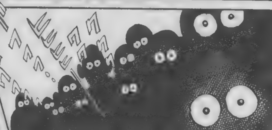

まさに
わが
無機質同盟

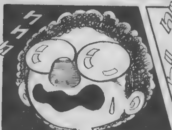

会員として
りっぱに
合格する
だけの資格が
あるのです

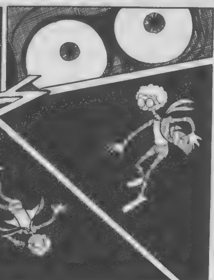

ボ ボクは
りっぱに合格なんか
したくないです!
こ こんな
じょうだんは
や やめてくれ
角田 き きみも
なんとかいってくれ


川島　きみも
この同盟にはいれ
ここは　まったく
いごこちの
いいところだ



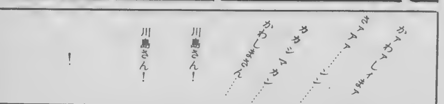




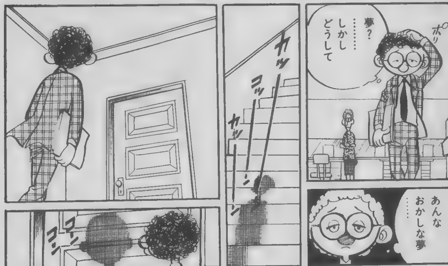


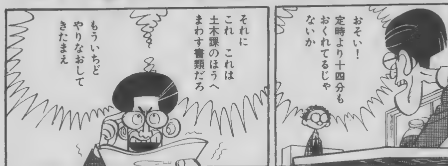


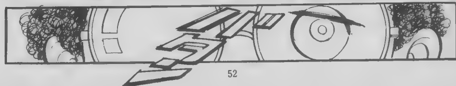


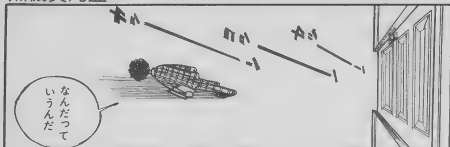

かァわァしィまァ
さァァァ……ンン・
カカシアカン……
かわしまさん……
川島さん！
川島さん！
！


どうしたの
ウ～
午後の書類配布におくれたら
また課長にしかられるわョ

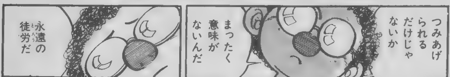

ポリ
夢？……しかしどうして
カッ
コッ
カッ
あんなおかしな夢……
コン
コン


おそい！定時より十四分もおくれてるじゃないか
それにこれ これは土木課のほうへまわす書類だろ
もういちどやりなおしてきたまえ




なんだって
いうんだ


どうせ
この書類は
倉庫の
かたすみに

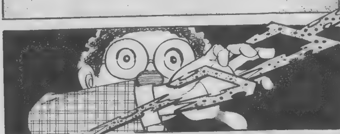

つみあげ
られる
だけじゃ
ないか
まったく
意味が
ないんだ
永遠の
徒労だ

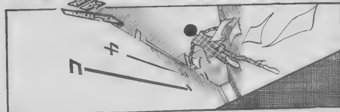

そうだ
むださ
無意味さ
君の人生は
苦痛だけさ


だれだ
どこに
いるんだ

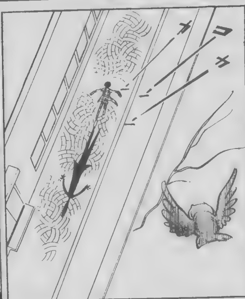
壁さ
壁の中さ

我々は
あらゆる
無機物の
中にひそんでいる
いつもその中から
きみをみている
フフフフ………



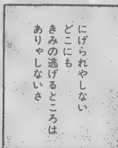


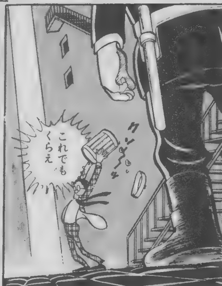


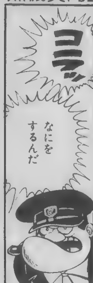





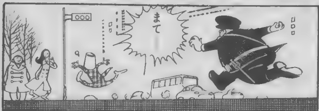


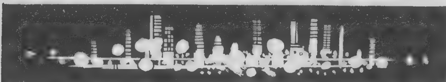

にげられやしない
どこにも
きみの逃げるところは
ありゃしないさ


これでもくらえ


コラッ
なにをするんだ



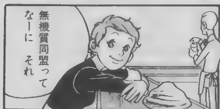

まて――





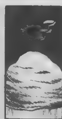


まあ
こんなに酔って
どうしたの
角田さんは
どうしたのいっしょ
じゃないの

角田！
か　かれは
無機質同盟に
はいっちまっ
たんだよ

無機質同盟って
なーに　それ

わー

ど
どけてくれ
それを

いったい
どうしたって
いうの
あんたって
めずらしい
酔いかたするのね



た　たすけてくれ
ひ　ひとりに
しないでくれ
おねがいだ
今夜だけ
でもいい
おれはひとりに
なると
やつらが
くるんだ

無機質同盟




いいわ
今夜は
ついてて あげる



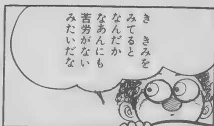

どうして
あんなに おびえてたの

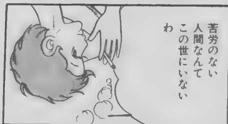

わからないんだ
生きる意味が
………

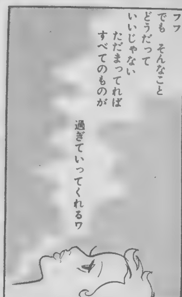


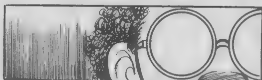


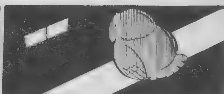

ばかみたい
生きる事に
意味なんか
あるわけない
じゃない
ほしけりゃ
自分で
つくれば
いいんだわ

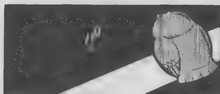

き きみを
みてると
なんだか
なあんにも
苦労がない
みたいだな


苦労のない
人間なんて
この世にいない
わ


フフ
でも そんなこと
どうだって
いいじゃない
ただまってれば
すべてのものが
過ぎていってくれるワ


すべての
ことは
時間が解決して
くれるわ…
さァ……
…………
…………
フフフ…



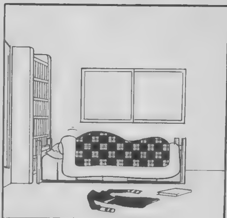


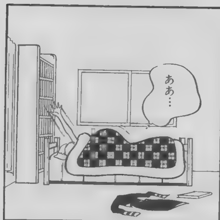


# 無機質同盟

チッ
チッ

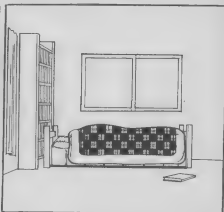
いたはずなのに

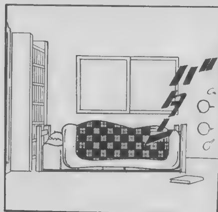


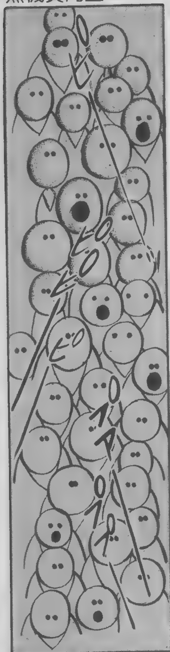

ああ…


あらあ……
どうしたのかしらあの人

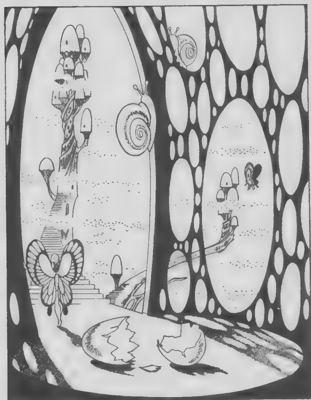

私をおいて役所へでかけたのかな
しつれいしちゃうわ




バターン

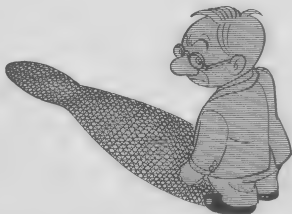


**無機質同盟／完**



# 鶏

にわとり



コ。
コココ…
ギ・ギィ!
コ。
グエッ
クウェエ〜ッッ!
バタ!
バタ!
あんたっ
あんたァ
あんた
もう
そろそろ
時間でっせ
ウ〜ン
コチ
コチ
コチ
コチ

鶏(にわとり)


あんたも
いよいよ


明日で
停年で
んな



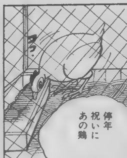

それにしても
会社も
ひどいのんや
おまへんか
33年間
務めたあんた
をいまだに平
のままで

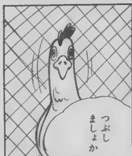

ほっとく
やなんて
せめて、
……


そのことは
ゆうな
ゆうてる
やろ


カッチ
カッチ
わしは
わしなりに精
いっぱいやって
きたんや
そや
かて
あんた


あんた それはそう……と


停年祝いにあの鶏


つぶしましょか


あ、あほぬかせ


あの鶏はわしのために
毎朝卵を生んでくれたんやで


それに停年もう少しのびるかもわからんで……


そやかてあんた……


ほないってくる
ガラ!


おきをつけて
アッ!!

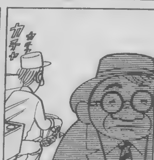

ペチャ!


わかってる

鶏(にわとり)

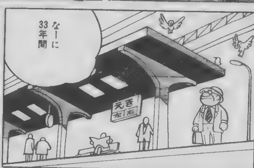

チュン
チュン
コツ

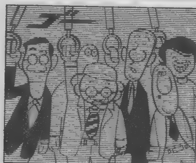

カチャ
カチャ
カチャ

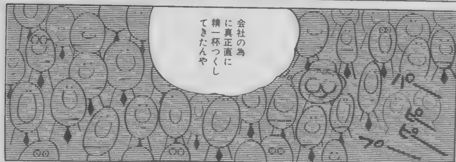

カチャ
カチャ

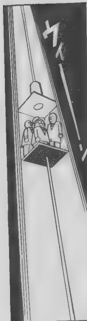
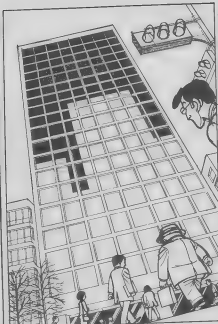

部長に頼んどいた停年 期の件


うまいこといってるんやろか


なーに33年間
えき




会社の為に真正直に精一杯つくしてきたんや


ウィーン


少々の事はきいてくれるやろ


33年間のわしの想いでや
ジリリーン
パチ

パチ
パチ
この机にもいろんな想いでがきざまれてるんやな……

パチ
パチ
パチ


それはそうと部長あの話のことねっからもちださへんけど
パチ
どうなってのかいなん

# 鶏(にわとり)


さっきからもう何度も言っているように

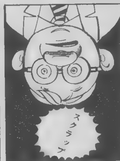

僕個人の意見としてはどうしょうもないのでね


し、しかし……私の一生の大半は会社の為に

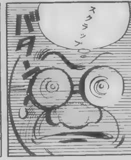

あ、あの机で過してきたんです、ここれが、この仕事がつまり、わての生きがいなんです、そ、それをうばわれたらわしは……


それに、これは会社の規則なんでね


ようするに、スクラップはいらんということだよ


スクラップ


それじゃ新人社員の歓迎会があるんでね

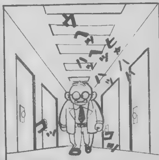

スクラップ
バタン




島野さん どうって ことない やないで すか 退職金も入る ことやし
ポン


そんなこ とやない


ガチャ！

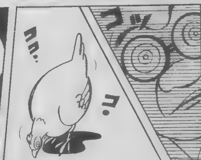

コッ
コッ


コッ
コッ


コッ
コッ
コッ

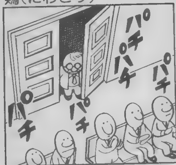

スクラッ プめ
コッ


コッ
コッ

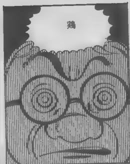

コッ

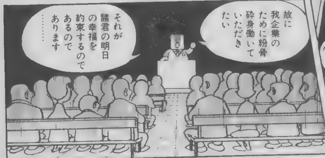

そやかて あんた 鶏は卵を生む 為と
人に食われる 為に生きてんのと ちがいまっか…

# 鶏(にわとり)

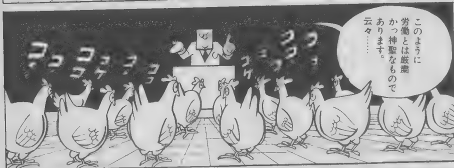

パチ
パチ
パチ
パチ
パチ

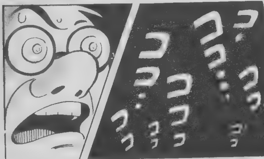

新入社員歓迎会


鶏

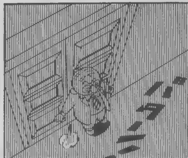

故に我企業のために粉骨砕身働いていただきたい
それが諸君の明日の幸福を約束するのであるのであります……




このように労働とは厳粛かつ神聖なものであります。云々……

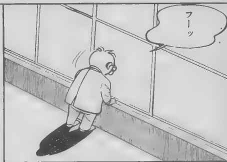


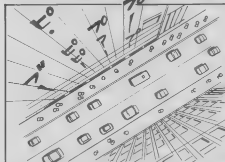

に、にわとりやみんな、にわとりや


バターン


ど、どうした
んやろ
みんなにわとり
にみえよる


きっと疲れ
てるんや


フーッ


プープ
プァー
ピ、ピー



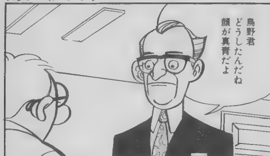

コケ、コケ…






ポン!

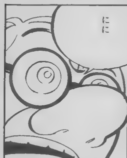
## 鶏(にわとり)


鳥野君
どうしたんだね
顔が真青だよ




ところで次の
就職先は
みつかったのか
ね


まだかね


にに

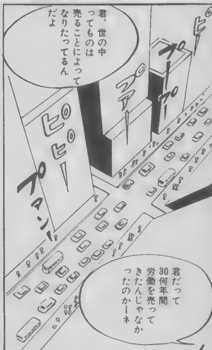

にわとりは
もう、ごめん
や、


……
にわとり
？

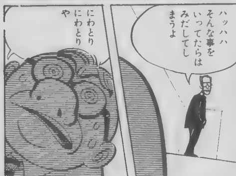

も、
もう人の
為に
働くのが
いやになった
んです

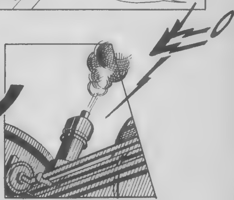

アッハッハ…ハッハッ

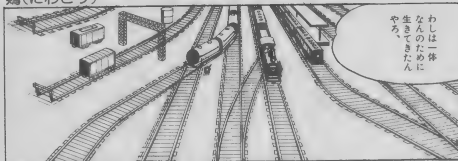

ハッハッハ
人のために
働くのがいや
だって?
なにを今さら
いい年をして

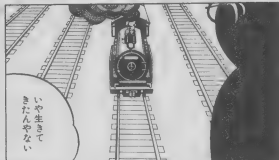

君、世の中
ってものは
売ることによって
なりたってるん
だよ
プァー
ピピー
プァン!
君だって
30何年間
労働を売って
きたんじゃなか
ったのかーネ

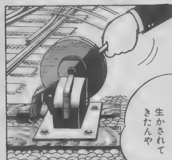

この世はネ
なにか売らな
きゃ生きてい
けないんだよ


ハッハハ
そんな事を
いってたらは
みだしてし
まうよ
にわとり
にわとり
や


ピー
ガチャーン
ガチャン
ガチャン
ガチャン
ポー

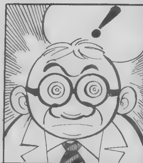
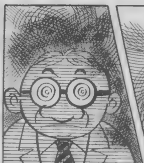

わしは一体
なんのために
生きてきたん
やろ、


いや生きて
きたんやない

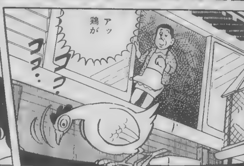
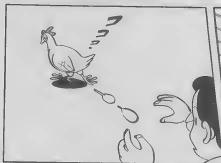
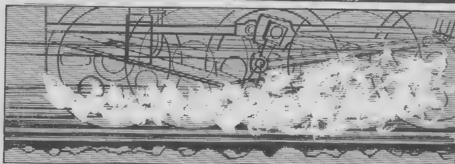

生かされて
きたんや

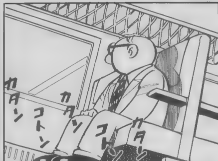

ドドド


ドドドドド


!


ボ———

バタ
バタ
バタ

アッ
鶏が
ココ…
ココ…

ココ…



カタン
コトン
カタン
コトン
カタン




あんただけです この世の中で、たよれるのは

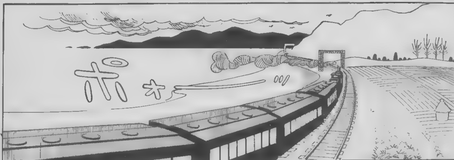

けっきょく 鶏は卵を生むか 食べられる為に 生きてんのとちがうか


生かされてるんだよ


ウハッハッハッハ
ウエッヘッ
アヒヒヒ


生きるんや 自分のために

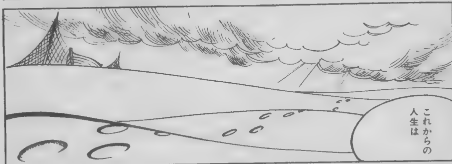



ポォーー





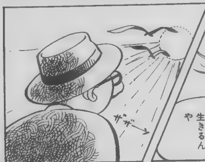
ポ



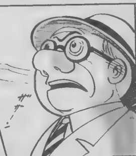
これからの
人生は



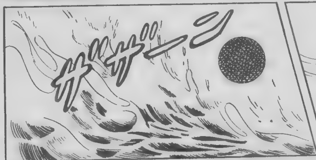
ピカー
ピカー
ザザ
わしの
ために
生きるん
や



ザザ

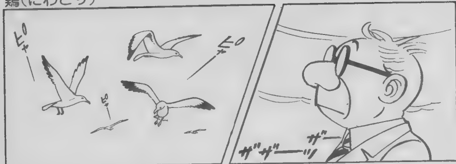


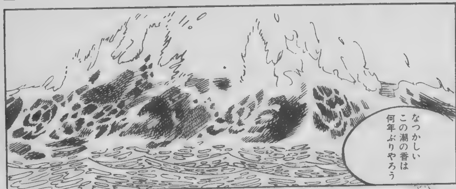
ザザー

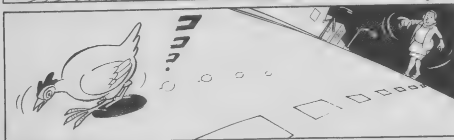


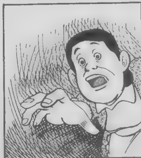
ザザーン

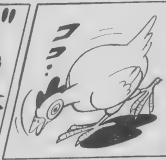
# 鶏(にわとり)

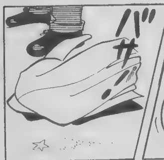


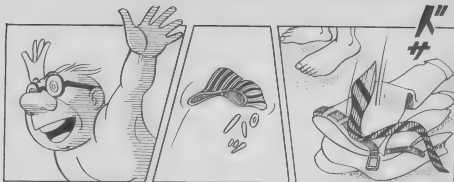



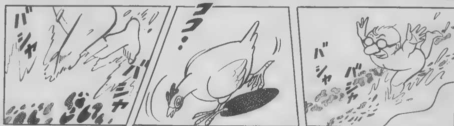



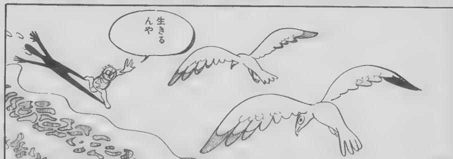


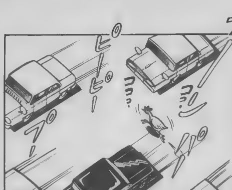
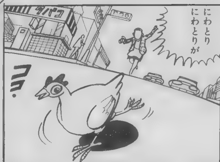
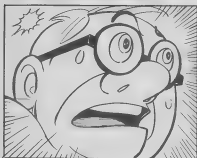



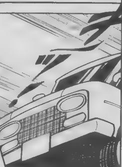
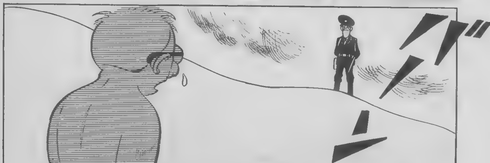

ドサ


バシャ
バシャ


バシャ
バシャ
ココ・・
バシャ
バシャ


生きるんや


ブル
ピーピー
コケッ
コケッ
パ
プー

にわとり
にわとりが
コョ


ポン


バ
ン

君こんなところでなにをしてるんだねアーン

ヅカ
ヅカ


なんやなんや
なんや
鶏が
あほらし
ガヤ
ガヤ
鶏やない
か


チュン
チレ
チン
チン
チン
チン
チン
コッ
コッ


コッ
コッ


ガラ
ラ

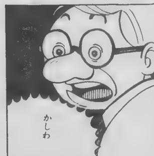

グツ
グツ


あんた今日は
えらい遅いや
おまへんか


今晩は
ちょっとした
御馳走だっせ


また湯どうふ
かいな……
グツ
グツ


グツ
グツ


かしわ


お、おまえは鶏鶏つぶしたんか!

あ、あんた

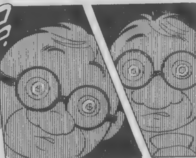
グツグツグツ

そうか……
カクン
グツグツ

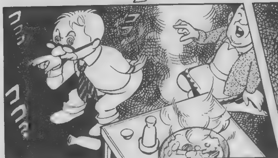
鶏は飛ぶことがでけへんかったんやな……

エッ?

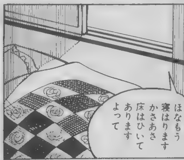
いや、檻をぬけだしたら生きていけんいうこっちゃ
グ

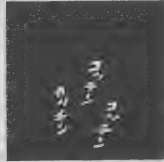
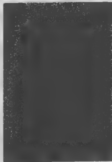
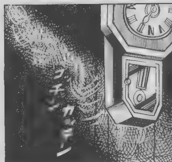

ほんまでんな、最近車がえろう、ふえてからに昼間はうるそうてかないまへん

フフ





いややわあんた
もう
酔い
はった
んでっか

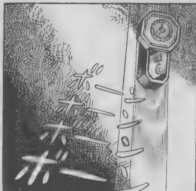

ホッホッ
ホッホッ

ほなもう
寝はります
かさあさ
床はひいて
あります
よって

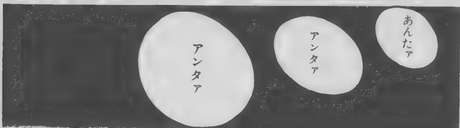

コッチン カッチン
コッチン




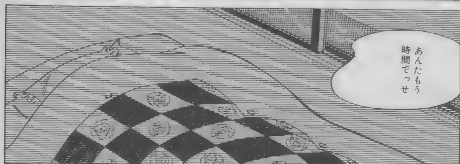
鶏(にわとり)

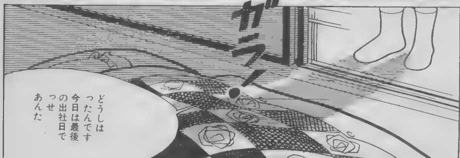

アンタァ


トン トン トン


ボーン ボーン ボーン


あんたァ
アンタァ
アンタァ


あんたもう時間でっせ


ガラ！
どうしはったんです今日は最後の出社日でっせあんた





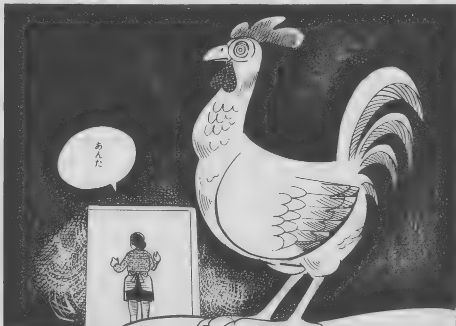










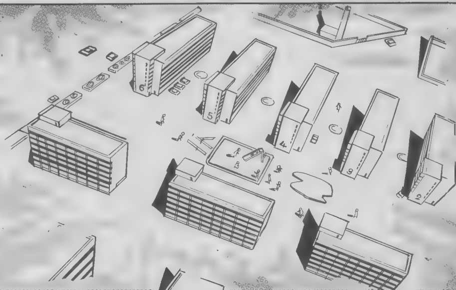




**鶏(にわとり)／完**

# 悪魔の招待席

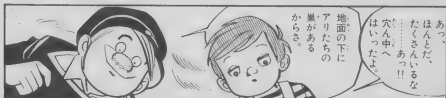


# 〈第1話〉小さな生き物

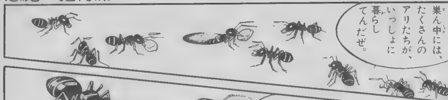


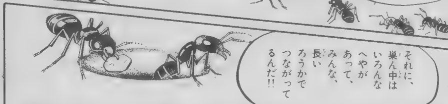


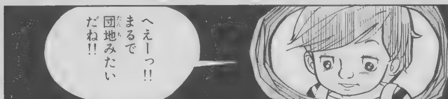
おーい、ケンちゃん、きてみな!! たくさんアリがいるぜ!!
どれ、どこ…

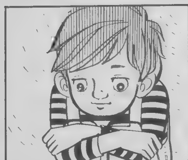
あっ、ほんとだ、たくさんいるな……あっ!! 穴ん中へはいったよ。
地面の下にアリたちの巣があるからさ。


巣ん中には、たくさんのアリたちが、いっしょに暮らしてんだぜ。


それに、巣ん中はいろんなへやがあって、みんな、長いろうかでつながってるんだ!!

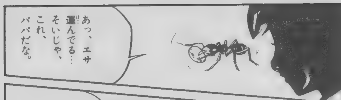

へえーっ!!まるで団地みたいだね!!


おーい、耕一、いくぞお!!
5



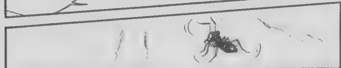

ケンちゃん、またな!!




あっ、エサ
運んでる…
そいじゃ、
これ、
パパだな。

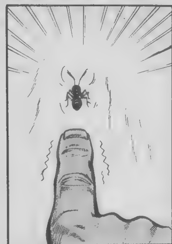

この
ちっこいのは
子どもだ
………


あっ!!
ママが呼んでる。
フフ………



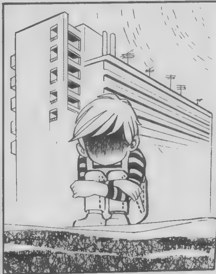




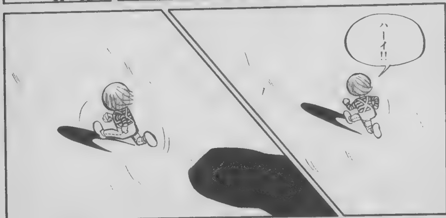



ギュ
ギリ
グシャ


ケンー、何してるの、ごはんですよ!!

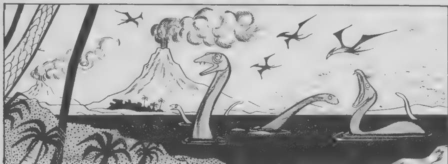


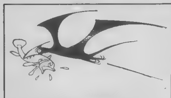



ハーイ!!



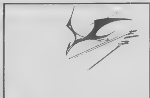
# 〈第2話〉すばらしき未来







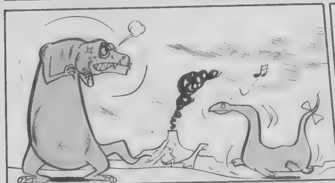







スィーッ
パッ
コニヤロ

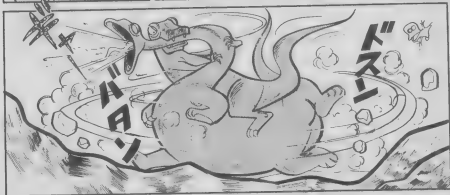

スト

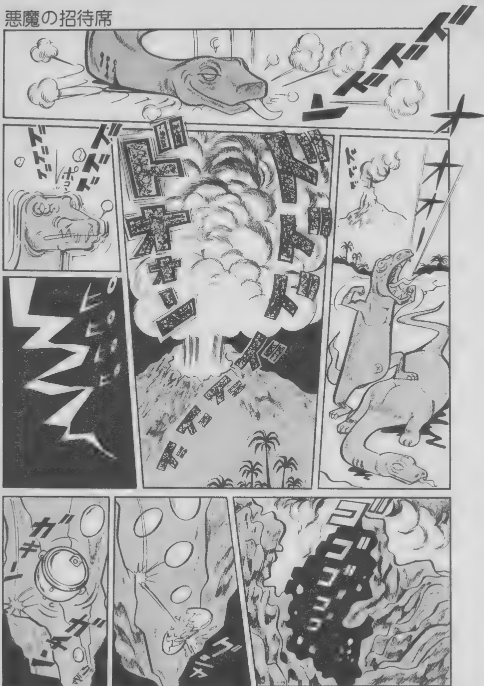


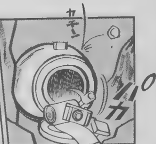
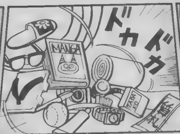
ムッ


ガバ


コニヤロ
コニヤロ
ドン
ドン
ドン
ドン


バタン
ドスーン


ドドドドドドドドドドドドド
ドドドド
ドドドド
ポヨン
ドドドドドドドドドド
ドオオオオーン
ドドドドドドドド
ドドドド
ドドーオオオオー
ピピピピピ
ガキーン
ガチーン
グシャ
ゴゴゴゴゴゴ

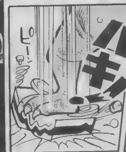
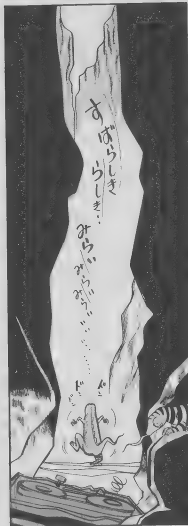

カチーン
パカ

ドカドカ
MANGA

カチ
ジ〜ッ

輝かしい未来文明社会の諸くん、コンニチワ!!

我われは、一九七〇年の人類である。
スッ

我われの、子孫である諸くんにこのタイム・カプセルの中身を、すなわち、我われの日常の生活の遺産をプレゼントしよう……我われの……

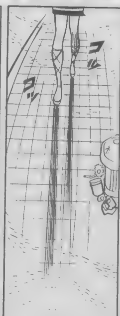
すばらしき未来に………

バキ!
ピーン

すばらしき
らしき…
みらい
みらい
みらい……
ドドン

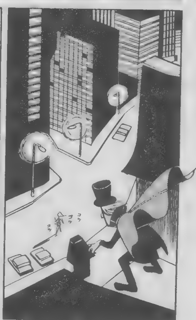
# 〈第3話〉吸血鬼

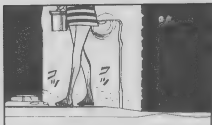




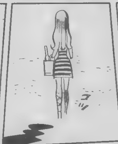




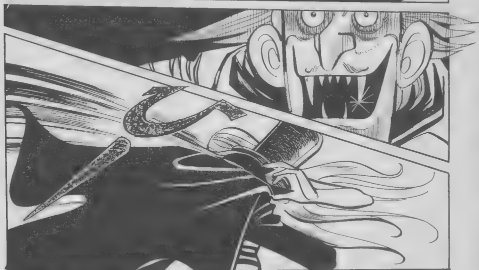




コツ
コツ

ククク……
コツ
コツ

もしもし、おじょうさん……

コツ

コツ
コツ

あなたの、まっかな血がいただきたいんですが……ククク…



歯科医院


はい、
口をアーンとあけて…

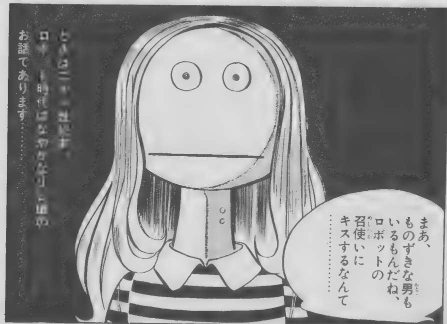

ほう
これはひどい!!
歯がぜんぶかけてますよ。
しかたない、ぜんぶぬくよりしょうがありませんな…
ギュ


しかし、いったい、なにをかんだんです?
カシャ


オクサマ、タダイマ カエリマシタ…


おつかい ごくろう だったね、途中、何も かわったことは なかったかい…


ハイ、ヘンナ男ニ キスサレ マシタ……


まあ、ものずきな男も いるもんだね、ロボットの 召使いに キスするなんて ……
お話であります……

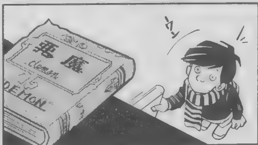
# 〈第4話〉鏡



明くんは、
古本高価
買入れます




いやに
きたない
本だな
……
悪魔
DEMON

ウーン
悪魔
DEMON



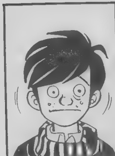

ウン!!
悪魔を呼び
だす法……
いやにくわしく
かいてあるな。
悪魔

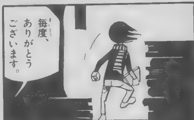


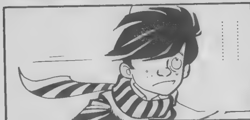

おじさん、
これ
ほんとうに
悪魔がでて
くるの!!
え!?


そりゃもう、悪魔でもなんでも……


ハイ！五百円です。




毎度、ありがとうございます。


…………


あ〜あ、これで一週間分のこづかいがパーか。チェッ!!
でもこれ、ほんとうに悪魔が呼びだせるのかな…………




いっちょう、ためしてみるか。



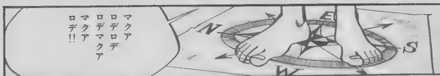
明って、何してるのかしら、鏡台なんかもちだして……。
ハハ……。明も年ごろだな、おおかた、ニキビでもつぶしてんだろ。

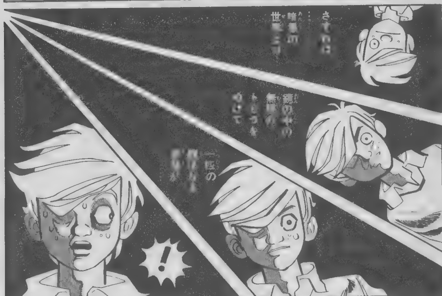


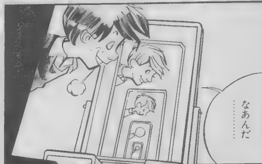

まず、鏡を左右向かいあわせにたてる。

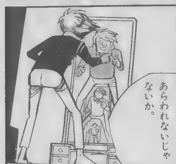



その中央にたちて……
呪文をとなえる。


マクア
ロデロデ
ロデマクア
マクア
ロデ!!
N
E
S
W


!


なあんだ……


あらわれないじゃないか。


あらわれたのは、ぼくだけか……へへ、ズーッとむこうまでつづいてやがる。

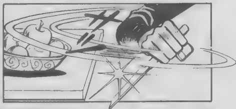
へへ…むこうまでズーッと……

ズーッと

ズーッと……

クソ!

あの古本屋のクソじじい、おれをだましやがったな!!



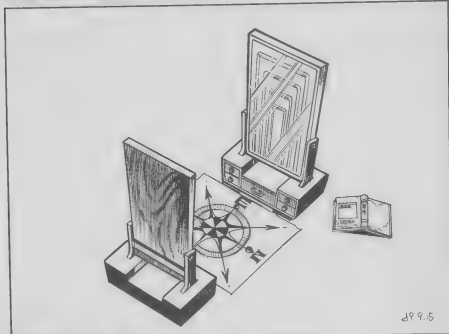
キッ

殺してやる!!

あきら!!あきら!!どこいくの、どこいくのったら!?

おかしな子ね、………まったく。



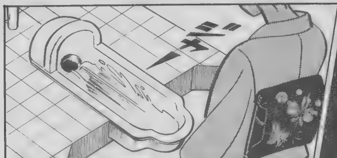


悪魔の招待席／完

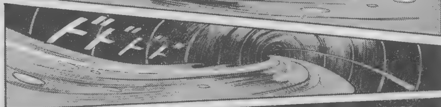


# ともだち
# FRIEND

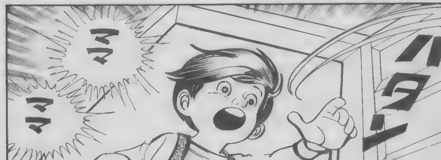

ワァ!!

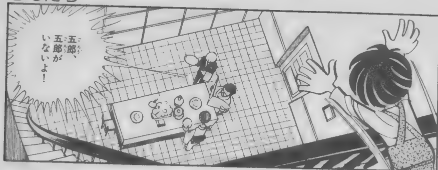

ジャー


ゴーオオオ


ドドドド

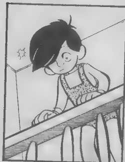

ドドドドド


バターン
ママ
ママ


五郎、
五郎が
いないよ!


五郎は
ママが
すてました。
コト


ママ
五郎が
いないん
だよ!!






うそだ!!


かえして、
かえしてよ
!!


ウァーン
ママ
五郎を
かえして
よ!
アーッ


佐江子
どうして
すてたり
したんだい?
あれは
ぼくが明のため
に、せっかく
買ってきた
ものじゃないか。


だって、あなた
明ったら
あれいらい
ちっとも外へ
でようとしない
んですよ。

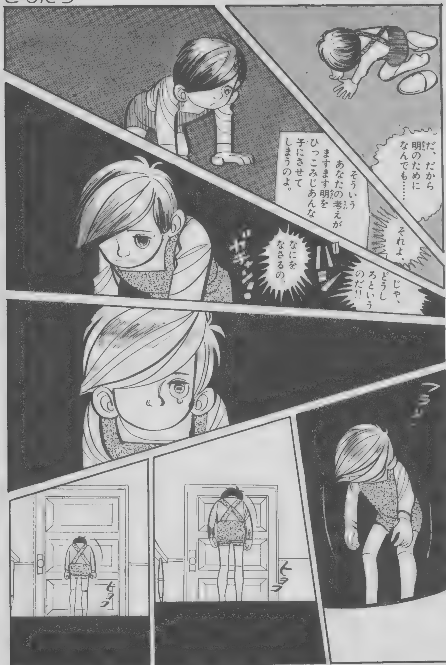

一日じゅう、五郎を
あいてに、へやに
とじこもったきり
……
それに
五郎だって
いつまでも
おいとける
ものでも
なし……


それというのも
みんな
あなたのせい
なんです
からね。


そうさ
!!
ビリッ

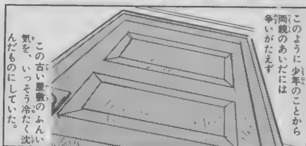

そうだよ。
みんな、ぼくの責任さ。
ぼくが、この手で
明の足をだめに
しちまったんだ。

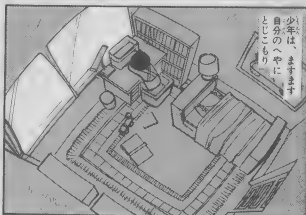

たとえ
暴発とはいえ
うかつに銃の手入れを
したぼくが
悪かったんだ……。


だ、だから
明のために
なんでも……
それよ、
そういう
あなたの考えが
ますます明を
ひっこみじあんな
子にさせて
しまうのよ。
じゃ、
どうし
ろという
のだ!!
なにを
なさるの、
バン
ガチャン!




バタン


このように少年のことから
両親のあいだには
争いがたえず
この古い屋敷のふんい
気を、いっそう冷たく沈
んだものにしていた。

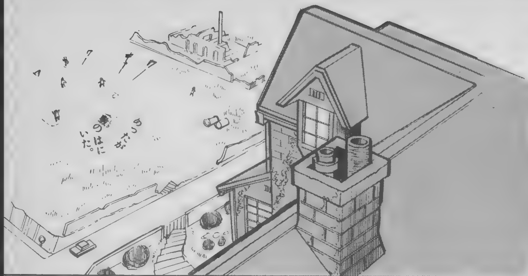

少年は、ますます
自分のへやに
とじこもり


一日じゅう、うす暗がりに
ポツ
ポッ
ポッ


そして


数年が


すぎた……。




原っぱに[illegible]びに
くる子どもたちとも
遊ぶこともなく

ただひとりで
石をあいてに
ボール投げを
しているのが
つねだった……。





あぁ…





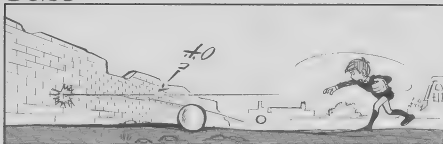

トン
トッ
トッ

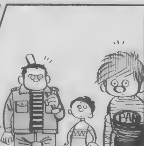



おーい サンキューー!!




# ともだち



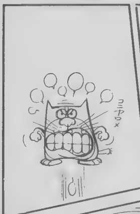




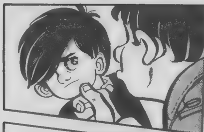








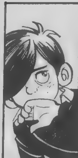

たまぐらい
ひろったって
いいじゃ
ないかよ。


なんだよ
その目は！



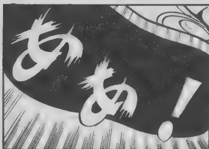

このガキ
かっこつけ
やがって…!!


ポキ
てめえ この竜一さまを しらねえのかよ。
ポキ



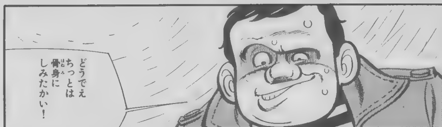

あ…… こいつ、あの でっけえ屋敷のやつだぜ。
やっちゃえ やっちゃえ!!

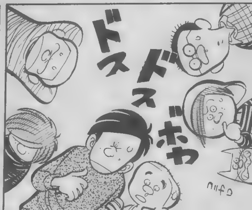

こいつ!!

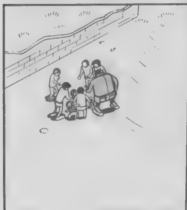

ああ!

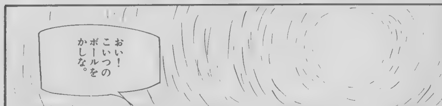


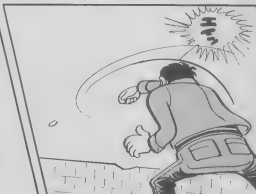



どうでえ
ちっとは
骨身に
しみたかい！


ドス
ドス
ボカ




おい！
こいつの
ボールを
かしな。


エイッ

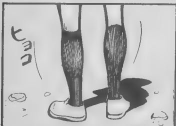

さ！
おめえの
ボール
ひろってきな！
グイ

ともだち



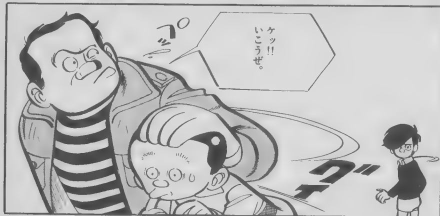


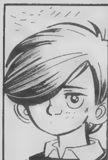






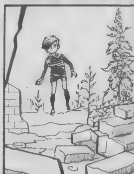


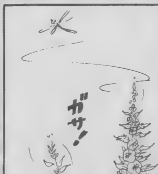


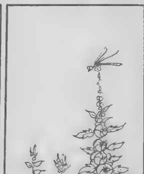




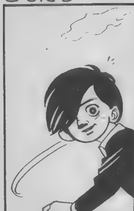


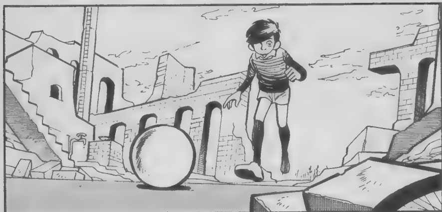


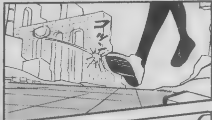

ガサ!





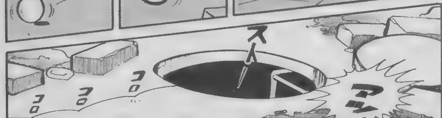




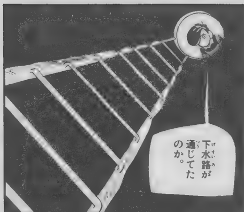

コツン


ポコ

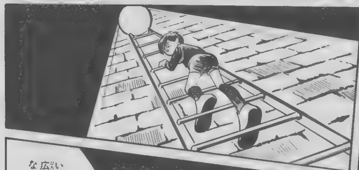

コロ
コロ


アッ
スー
コロ
コロ
コロ

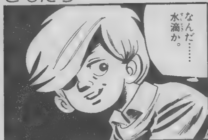

こんなところに……………


下水路が通じてたのか。

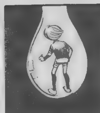





いがいと広いんだな……。


なんだ……
水滴か。








あっ！



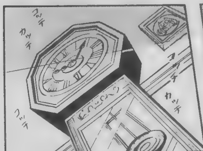




数日後………





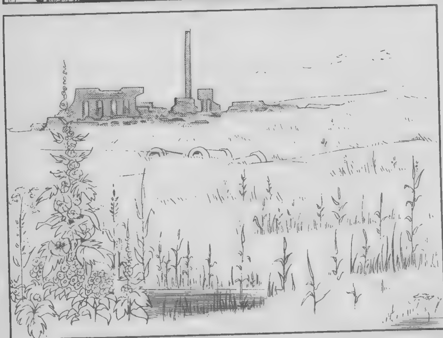







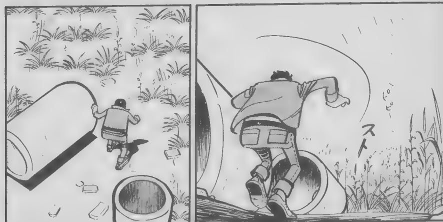
なんでも友だちが見つかったとかいって原っぱでよく遊んでるようですわ。
それにイヌにやるからと、よくビスケットをもっていきます。
ほう……そういえばこのあいだ原っぱで犬と遊んでたな。

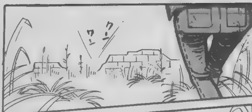

ハハハ…イヌの友だちかな。
とにかくあの子のひっこみじあんな性格がなおってくれればいいんですけど
……………

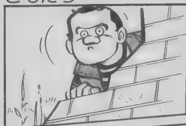


へへへ…
すげえ。

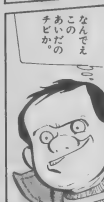



クーン
ワン

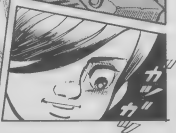




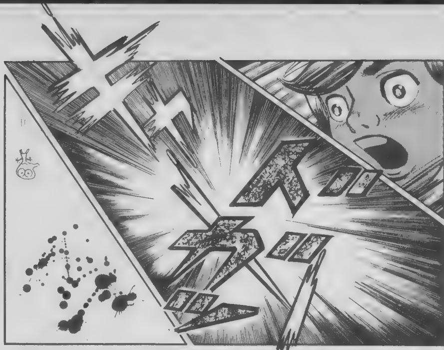

なんでぇ
このあいだのチビか。

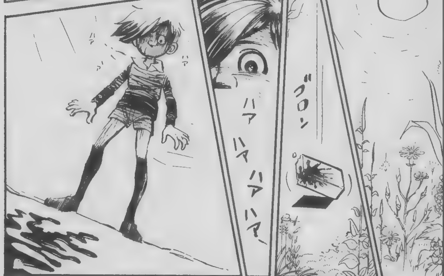

グルル…
ガッ
ガッ




ガッ
ガッ
ガッ



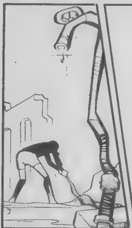

ギャ
ドグシャ

ゴク

ハァ ハァ ハァ ハァ
ゴロン


ズル ズル ズルル

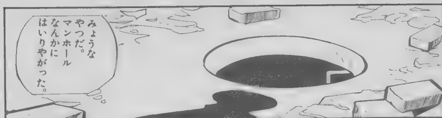

ズル


ズルル
ズルル
ズ

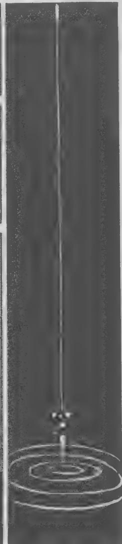


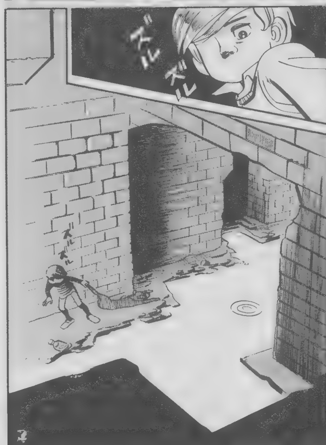




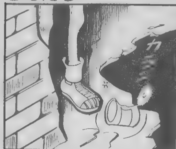

みょうな
やつだ。
マンホール
なんかに
はいりやがった。

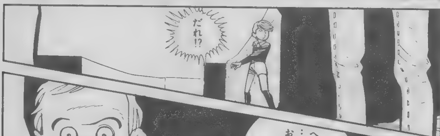


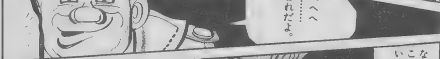


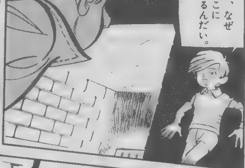

ズル
ズル
ズル
ズル


フーッ




だれ!?


へへへ……おれだよ。


な、なぜここにいるんだい。

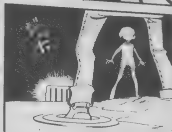

へへへ…おめえのあとをつけてきたんだよ。


おめえ、虫も殺さねえ顔をしてて すげえことするじゃねえか。


かえれよ、ここはぼくだけの場所なんだから。


へへへ……
なめるんじゃねえ!!


……おめえイヌを殺してこんなところでどうするつもりだったんだよ!
さあいってみな。




いえよ……どうなんだい。

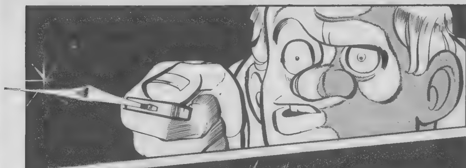

ぼくをいじめるとぼくの友だちがこわいぞ。


友だち？へへへ…ここは、おまえとおれのふたりきりだよ。


へへへ…………


こわいぞこわいぞ!!









足が あしが

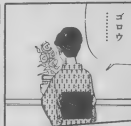


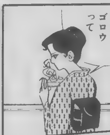



あらあら
電気も
つけないで。
カチッ
きょうは
なにして
遊んでたの。

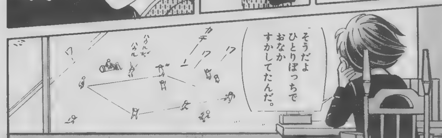

とっても仲のいい
友だちに
いいもの
やったんだ…。


友だち
って
だあれ？
五郎
だよ。


ゴロウ
……。


ゴロウ
って

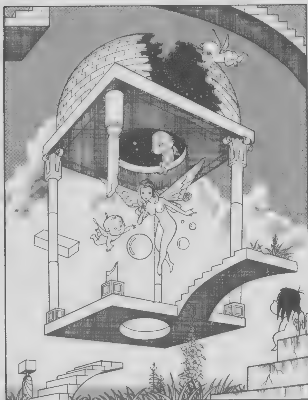

五郎って
まえにママが
すてた……

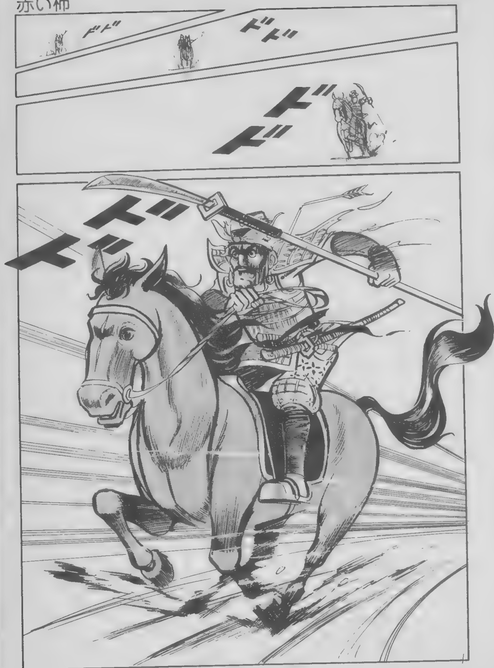

そうだよ
ひとりぼっちで
おなか
すかしてたんだ。






ともだち／完




ドドド
ドドド
ドド
ド
ドド
ド

むかし、むかし
とおい、とおい昔、
あちらこちらで
戦いのあった
ころの話で
ございます……



すすきが原の真中に
大きな柿の木が
ございました……
その木のそばに、
三人の親子が貧しい
ながらも幸福に
暮らしていたので
ございます……



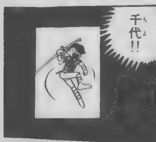
となり村の、ごん作みてえに、都さでて、おら、きっと立派な侍大将になって帰ってくるだ!!
そしたら、おっかあにだって苦労させやしねえ!!



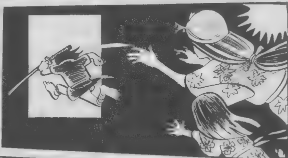

ばかこくでねえ、そうかんたんに大将なんかになるもんじゃないよ!!
そんなことより、親子三人、静かに暮すのが一番の幸福なんだよ!!




しかし……
源太、いかないでおくれ!!

千代!!



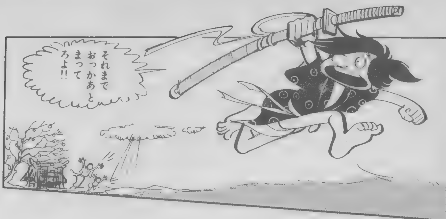
いまに、こんなでっけえまりでも、人形でも、買ってきてやっからな!!




ウーン




源太!!



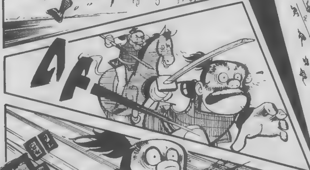

それから、
すすきが[redacted]の柿が、10数回も
実りをくりかえすほどの、
長い長い年月が
すぎさったのでございます……

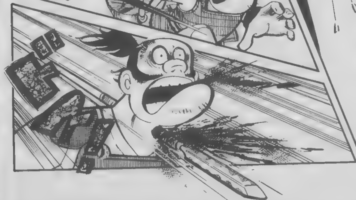


赤い柿
THE RED PERSIMMON

追え、追え
朝倉の残党は
ひとりも
のがすでない
ぞ!!







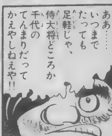
あぶねえ、あぶねえ……

やけにあけえ夕焼けだぜ……


まるで、すすきが原の柿みてえな色をしてやがる……

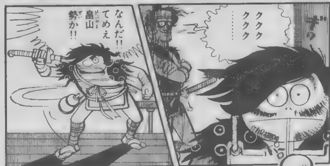

おっかあや千代はいまごろどうしてるかな……


……
……


ああ……いつまでたっても足軽じゃ、侍大将どころか千代のてんまりだってかえやしねえや!!


ビッ
ケッ!!




ククク
ククク……
なんだ!!てめえ畠山勢か!!


まあ、あわてるねえ…
おれは、筑[redacted]の鬼頭太ってものよ……
人のものは、なんでもいただくのが、おれの仕事だ!!
なんでえ……ぬすっとか……

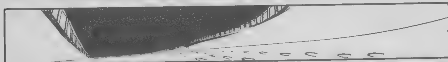

へへッ、足軽をやってるよりゃ、
よほどりこうってもんだぜ……
そうよ、いつまでたっても、まず侍になれることはねえ!!
足軽は、いつも陣の最前列でタテ、がわりだ……
どうせ、この世はとったり、とられたりよ……


すいこまれるように消えていったのでございます
そして、きょうは東、あすは西…と、京の都では日夜、戦いにあけくれ何千何万のしかばねや白骨が、河原にちらばり、おびただしい骨と皮ばかりの流民がさまよっているようすはまさに、この世の地獄そのものでございました……



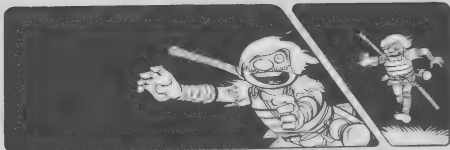
戦いのあいだには、夜盗があばれまわり……
ドドド
ドドド
ドドド
ドッ
その中でも、最も恐れられたのが、
ひきいる一団
ドドドド


ドドドドー




ワハハハ
グハハ
ハハハ
ハハ


源太が
いないようだが
どこへ
いった……!?
タラランラン
ワハハ
ヒヒヒ
ジュース
ヘヘッ







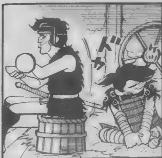
パチ!




どうした…!?


おかあ


ずい分、寝ごとをいってたようだぜ……
どうもしやしねえ……


ドカ


鬼面党の
源太ともあろうものが
いまさら、おっかあでも
あるめえ………




ビッ
ケッ!!
おめえには
親兄弟は
ねえのか
よ!!


赤子の時、裸どうぜんで
羅生門にすてられて
いたのよ………


三条の河原


都は
まるで
地獄
だ!!
フッ


ああ、
故郷が
なつかしい
や!!
ドサ

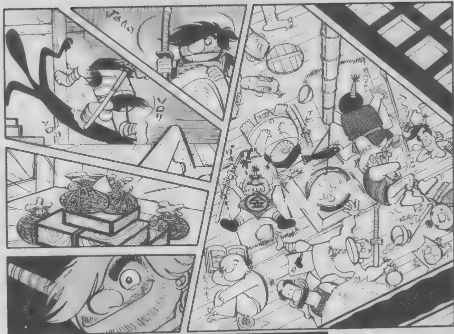
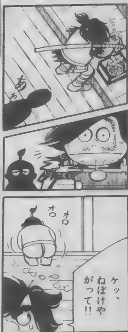
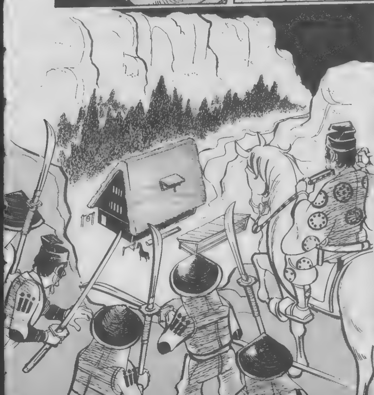

おれの
家は、
すすきが原
の真中に
あってよ
………

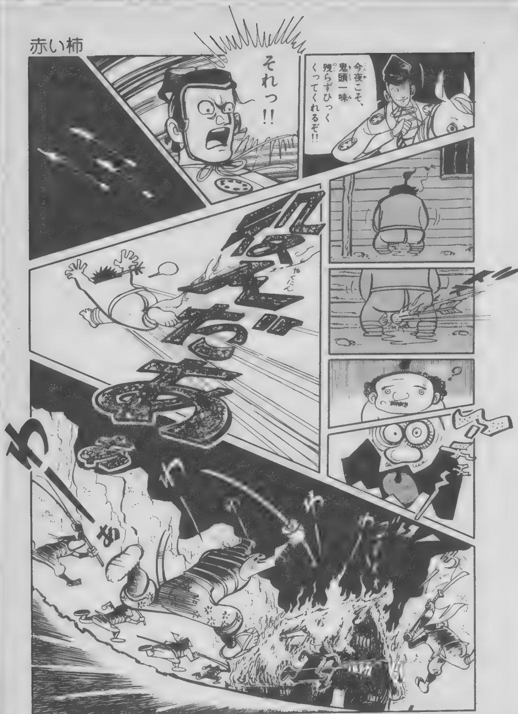
おめえの
故郷は
たしか紀伊
だったな……

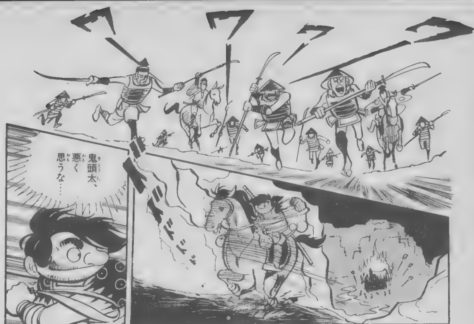
ゴビ

あそこは、
畠山一族の
いくさが
あった
うえに……

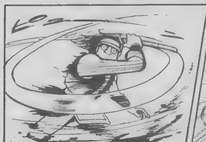
疫病が
はやって
かなりの死人が
でたって
いうぜ……



オロ オロ
ケッ、ねぼけやがって!!



今夜こそ、鬼頭一味残らずひっくくってくれるぞ!!
それっ!!
わー
あ
わ


ワァァァ
鬼頭太、悪く思うな……


それそれ、鬼頭太は、そこじゃ!!

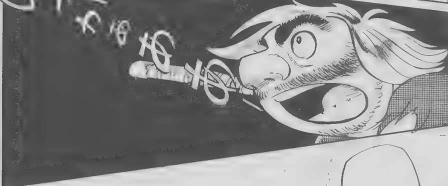






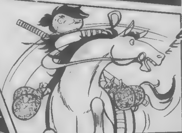

ドス





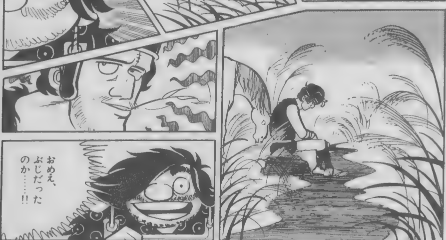


おっかあ、
侍大将には
なれなかったけどよ、
いま、黄金を
もってけえるぞ!!
源太は、母親の
名をよびながら、
三日三晩、走り
つづけたので
ございます

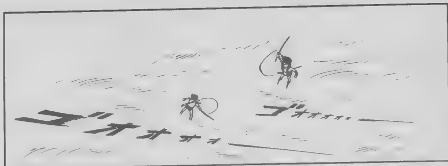



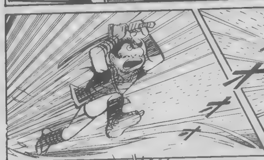

おおっ、
すすき
が原だ!!

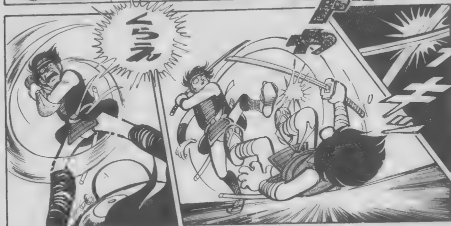


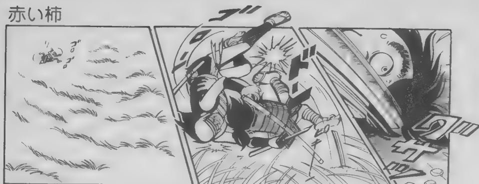

おめえ、ぶじだったのか……!!


どうやら、おれだけはな……
おめえも、人が悪いぜ…賞金をひとりじめにするとは……
21
さあ、それをかえしてもらおうか!!
へへへ、おめえにゃ悪いが……だめだ!!

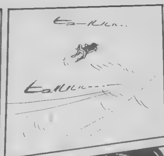

ゴオオォォ
ゴォォォォ

ウオオオオ

くらえ
ドッ
ガキ


ゴロン
ド
ピキ
ゴゴ

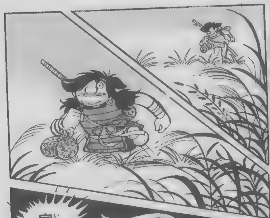


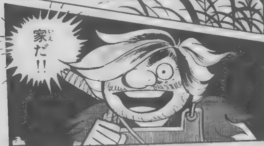

ヒュールルル…
ヒュルルル……

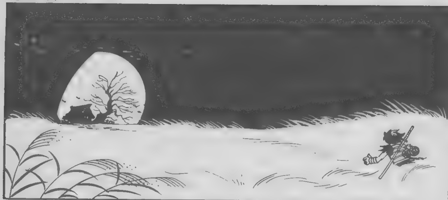




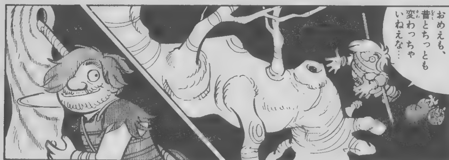




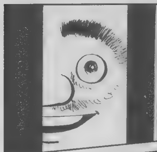

家だ!!



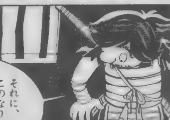



おめえも、昔とちっとも変わっちゃいねえな…



あっ!!



へへへ……
おっかあも
えらくトシ
とっちまったな……
千代のやつも
大きくなり
やがった………

へへッ、
おれが
とつぜん
帰ってくると
ふたりとも
腰ぬかすんじゃ
ねえかな!!

それに、
このなり
じゃな…

今夜は、
ただの旅の者
としてとまって
あすにでも、
うちあけると
するか………



ゴオロ!
ゴロ!
ゴオロ


ゴオロ
ゴオロ
ゴオロ
しかし……女手だけではたいへんでございましたな……
ゴオロ


ゴオロ
ゴオロ
畑仕事も、女手だけでは思うようにまかせませぬ……

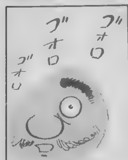

ゴオロ
しかし、人には、その世、その世にあった生き方ができるものでございます……これも身仏のお心じゃと思っております……


そういえば
生きておれば……そうじゃの…ちょうどおまえさまと同じようなトシごろの息子がいたのじゃが京にいったきり、なんの音さたもございませぬ……


だいじょうぶ!!

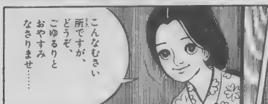

いまに、きっと…いや、あすにでも、帰ってきますよ…きっと……!!

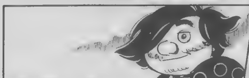

ぶじにいるようにと毎朝、都の空にむかって手をあわせております……
ゴオロ
ゴロ

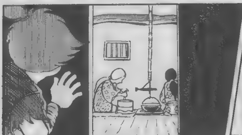

ゴオロ
ゴオロ
ゴオロ


ゴオロ
ゴオロ
ゴオロ
ゴオロ
ゴオロ


もし、寝床の用意が、できました……


こんなむさい所ですが、どうぞ、ごゆるりとおやすみなさりませ……





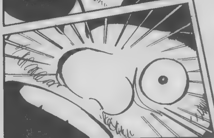

おっかあ、千代……、これからは、このおれがきっと、幸福にしてやるからな……!!



その夜、源太は、幼いころの幸福な日びを
夢にみたのでございます……





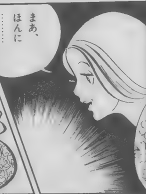





この乱世では、おなごふたり、このようにせねば生きてゆけぬのじゃ………ゆるせ!!
ギャアアアーッ
ガッ

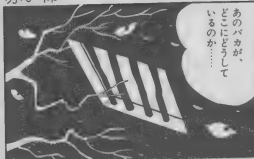
千代、しまっしてきたか……


いつものように、柿の木の下にうめといた……

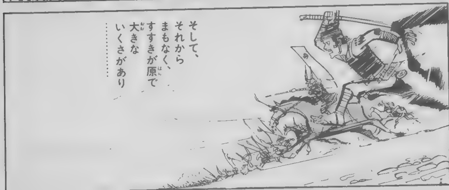
千代、きてみろ……すごい黄金じゃ…

まあ、ほんに……

これで源太が帰ってくれば、いうことはないのじゃが……


あにきのことじゃ……いまにきっと、千代、ほらっ、てんまりのみやげじゃゆうてひょっこり帰ってくるさ……


あのバカが、どこにどうしているのか……


あの男、なんだか、あにきに
似ていた
バカこくでねえ!!
原太であるはずがねえっ!!


そして、それからまもなく、すすきが原で大きないくさがあり……

そのあとには、
おっかあと千代の家もなく、
ただ柿の木が、
ぽつんとたっているだけで
ございました……
そして、その冬…………




赤い柿／完

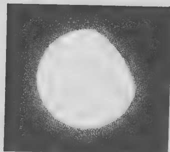
モコモコ山物語

# 人知れず森の中で…



むかし
むかし
日本一の名声を
求めて
一人の琵琶法師が
山中を旅していた

日も暮たので



琵琶法師は
一本の桜の
根元で
眠ることに
した

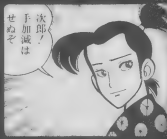


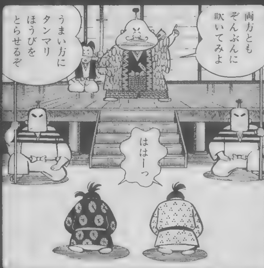
その夜
琵琶法師は
奇妙な夢をみた




太郎と次郎と、笛を吹くのがうまい若者の家だった
太郎と次郎がきたぞ


太郎の笛か次郎の笛か今日こそわかるだ！
私は次郎だと思うわ
バカいえ太郎にきまっとる
今日は太郎と次郎が殿さまの御前で笛吹きくらべの日……


次郎！手加減はせぬぞ

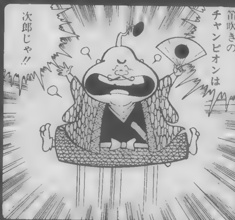

両方ともぞんぶんに吹いてみよ
うまい方にタンマリほうびをとらせるぞ
ははーっ

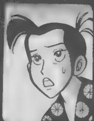

おーさ 全力をだしきって吹くのみ……！

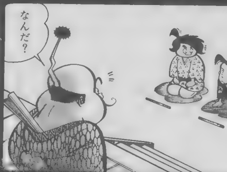

まず 太郎が
人々の心にしみわたる
哀しく美しい曲を


次郎は
人々を奮い起たせる
勇ましく明るい曲を

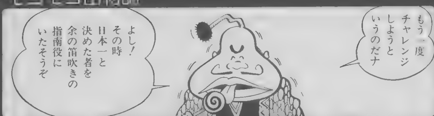

そして――その結果は


笛吹きの
チャンピオンは
次郎じゃ!!

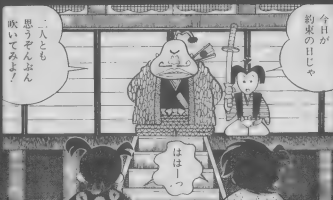

そ…そ…


お殿様
お願いが
ございます
なんだ?
その決定は
太郎を納得
させなかった……

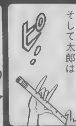

い
一年後に
もう一度
次郎と
笛を競って
みとう
ございます


もう一度
チャレンジ
しようと
いうのだナ
よし！
その時
日本一と
決めた者を
余の笛吹きの
指南役に
いたそうぞ


は！


そして一年後
今日が
約束の日じゃ
二人とも
思うぞんぶん
吹いてみよ！
ははーっ


次郎は勇ましい曲を


そして太郎は
ピ


ピッ
ピッ

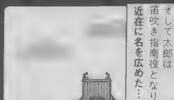

一年前よりも
すばらしい音色で
吹きまくった
プ

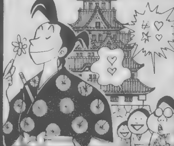

ヒヒヒヒヒ
ンンン‥
ニニニ‥
こりゃケッサクじゃ

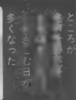

日本一は太郎じゃ


俺の勝ちだ………


……なにごとも要領さ
この一年俺は殿様の好みを徹底的に勉強したのさ……


そして太郎は笛吹き指南役となり近在に名を広めた…




ところが
込む日が
多くなった




笛を吹くことがムナシイ‥………
笛を吹く喜びがなくなっちまった……
昔の俺はこうではなかった


気晴しに
散歩でも
しよう……






あの音は……!?


次郎……
楽しそうに
吹いてる
……ナ


それに
ますます
うまくなって
いる……

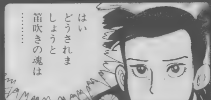

こんなバカな
勝った俺が
ムナシクて……
負けた
次郎が楽しい
なんて……!!


なに　笛はもう吹かぬだと!!


どうあっても笛を吹かぬというのだな!


魂のない笛はもう吹けませぬ……

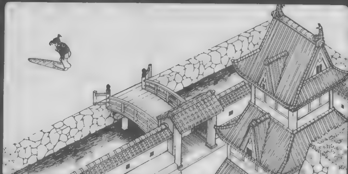

余に逆いおって……ならその腕切捨てても吹かぬというのか!?


はい　どうされましょうと笛吹きの魂は………

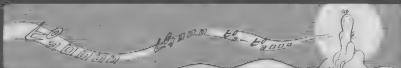

おのれ!!



# モコモコ山物語



切落されて城を



その翌日から
モコモコ山の




何年か後　山奥のその場所から



一つの芽がでて





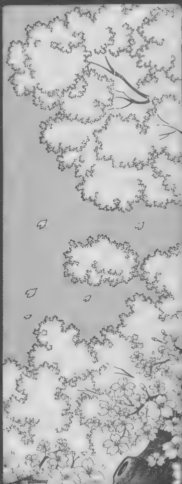



ン!?


……夢か
しかし…妙な夢を……




おや もう夜明けか…
そろそろ出かけねば


大きな桜の木になった

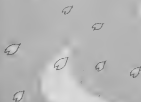
目の不自由な
私でも　耳が
あるおかげで
朝がわかる
ありがたい
ことじゃて！

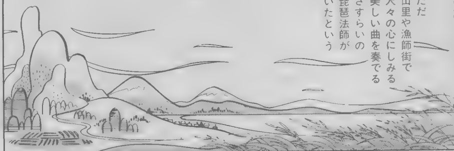




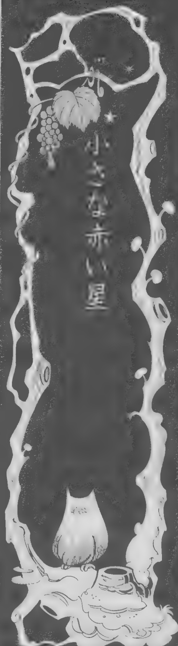









人知れず森の中で…







その
ゴロスケは



夜空に
輝く
一番大きな
青い星をみて





それを見て
若いミミズク達は




と笑い

長老は







と、さとしたが




それどころか



夜毎　その星めざして飛びあがり








ゴロスケも 老いたが



なおも 夜ごと 飛びつづけた



しかし 星にはまだ いきつけ なかった

そして ある夜 ゴロスケは




と、フト 思った

ゴロスケは老いた体から ありったけの力を ふりしぼり



夜空に舞いあがった





ゴロスケは
なおも
星めざして
グングン
飛び
つづけた





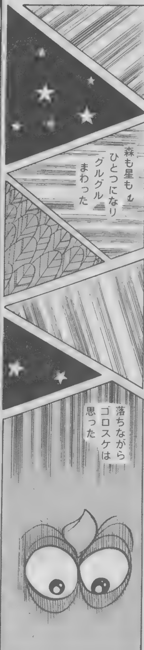


それでも
ゴロスケは
飛びつづけた



しかし…
ゴロスケは
にまっさかさま
まっさかさま
まっさかさま
まっさかさま
まっさかさま
さかさま

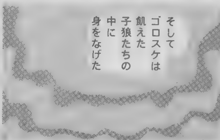


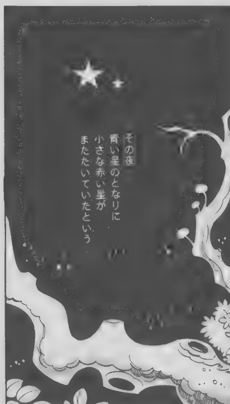

森も星も
ひとつになり
グルグル
まわった
落ちながら
ゴロスケは
思った
わたしの一生は
ムダだったん
だろうか…
やっぱり
長老や仲間の
ゆうとおり
だったんだろうか?
そして
落ちたところは
森の中
ドスン
そこには
狼


しかし 母狼は
猟師の手にかかり
死んでいた
子狼は飢えてやせて
泣くばかり


可哀相に
ハラがへって
死にそう
なんだな


子狼たちよ
私の命は
もう終りだ
私を
食べなさい
そして
元気におなり

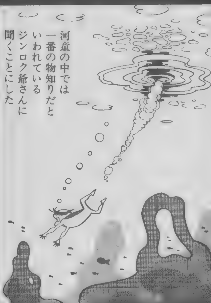

そして
ゴロスケは
飢えた
子狼たちの
中に
身をなげた


その夜
青い星のとなりに
小さな赤い星が
またたいていたという

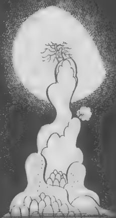
# モコモコ山物語 海へ……


むかし……
モコモコ山の
モコモコ池に
住んでいた
河童の
カワタロウは


3年3か月
考え続けたが
さっぱり
解らなかった


河童の中では
一番の物知りだと
いわれている
ジンロク爺さんに
聞くことにした






なぬ
ピッピーに
なりたい!?
腹くだし
か?

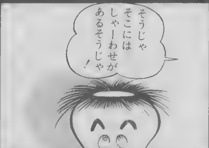

ちがう
ちがう
ハッピー!
すなわち
しあわせに
なるには
どうしたら
いいかと
う~~むむむ
こりゃ ちと
ムズカシイ
こういう問題は
古来より
いろんな哲人が
考えておるが
なかなか明確な
答はでない


ン!!
そういえば
ワシの爺
さまのそのまた
爺さまが こんな
ことをいって
おった……
そうじゃ


ここより
西の方に
まっすぐ
ドンドコ
ドンドコ
いって
まだまだ
ズンズン
ズンズン
ズン~~と
いくと


ヴワ~~ッ
と!!
広くて
でっかい!!

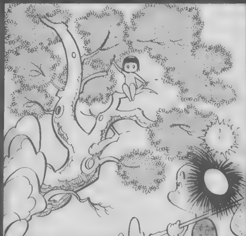

海とかいう
大きな池に
でるそ~じゃ
海に


そうじゃ
そこには
しゃーわせが
あるそうじゃ
!





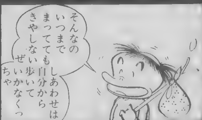

かまわず
ズンズン
ズンズン

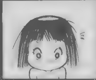








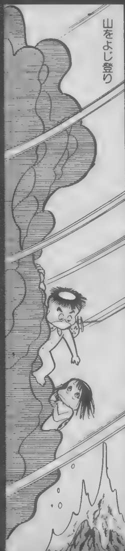


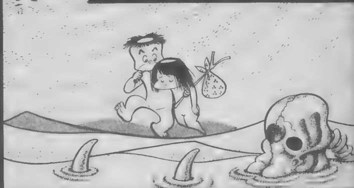






で、二人いや二匹はドンドコでかけることになった
野を越え


河を渡り

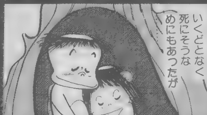

山をよじ登り


砂漠を横ぎり


の日も


風の日も


雪の日も


いくどとなく
死にそうな
めにもあったが

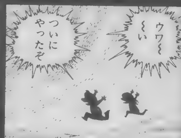

それでも
二匹は
ズンドコ
西へ……


もう
だめだ
……

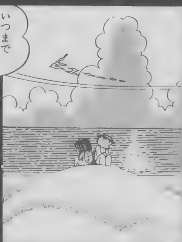

しっかりして
海は
もうすぐよ
そんなの
気やすめだ
オラ　もう
くたびれた


ン!?
なんだ
あれは……

海だ！


ウワ〜〜い
ついにやったぞ


やっとしあわせの海にたどりついたわ
ウッ！塩っからいや！



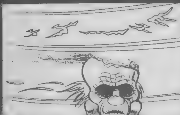

いつまでたってもなんにもおこらない
なんにもない村も人影も

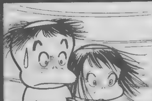

そうさここにはなあ〜んにもない


わしも
ずいぶん
長い間
ここで
しあわせを
待ち続けて
おるんじゃが
そんなものは
ここには
ありゃせん

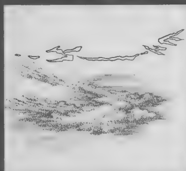

あるのは
砂と波の音と
風の音だけ
じゃ


わしは
もう
待ち
くたびれた





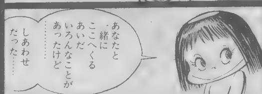







やっぱり ここには しあわせ なんか なかったんだ


でも しあわせ だったわ


あなたと 一緒に ここへくる あいだ いろんなことが あったけど ……
しあわせ だった……

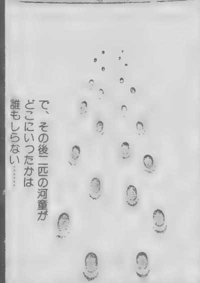

そうだ！しあわせだった






いろんなことが あったけど




で、その後二匹の河童が どこにいったかは 誰もしらない……

モコモコ山物語／完

# 植物のある風景




あの人
私が浮気して
いるってこと
うすうす
気付いた
らしいわ


フフフ……
大丈夫よ！
まさか
あなたが
私の相手だとは
思っちゃいないわ






それにしても
あんな
陰気臭い家で
年寄りの相手なんか
しているのは
もう　うんざりだわ


まあ待て
もう少しの
辛抱だ
あの先生も
お年のうえに
持病の
高血圧だ

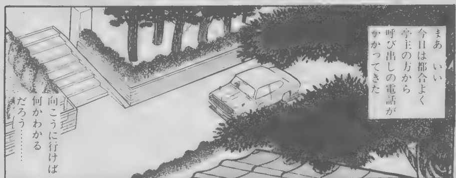

毎夜 毎夜
この体で
攻められ
たんじゃ
そう長くは
ないだろう
それまで
たっぷり
サービスして
やりな
そうすりゃ
あの先生の財産は
俺たちの
もんだ!


それが あの人
年のわりには
タフなうえに
異常なくらい
嫉妬深いんだから……
ホテル
この調子じゃ
私の方が先に
まいっちゃい
そうだわ


ブルル


あれから
一か月……
多喜子から
全然
連絡がない
いったい
どうしたと
いうんだ……

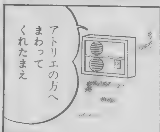

今までは
少なくとも
一週間に一度は
電話で連絡して
きたというのに
……


まあ いい
今日は都合よく
亭主の方から
呼び出しの電話が
かかってきた
向こうに行けば
何かわかる
だろう……




バタン

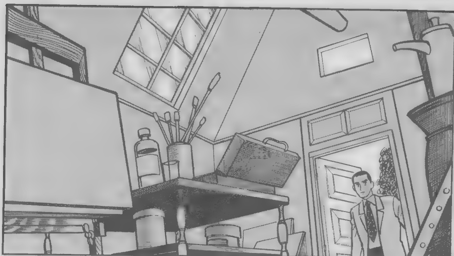

どなた?
吉沢ですが

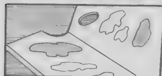

アトリエの方へ
まわって
くれたまえ

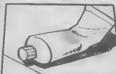


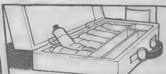













プ





## 植物のある風景

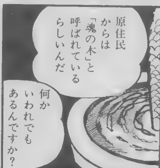

かわった
木ですね




いい
匂いだろ


うん
アマゾン河流域の
奥深いジャングルにしか
生息しない
珍しい植物でね


なんでも
死期の近づいた動物が
この植物の花弁から
発せられる甘酸っぱい
香りに引き寄せられ
この植物の根元で
息をひきとる
らしいんだ
すると　その動物の死体は
この植物から出る樹液で
数日と経たないうちに
跡形もなく溶かされ
この樹の養分に
なってしまうと
いうことだ


原住民
からは
「魂の木」と
呼ばれている
らしいんだ
何か
いわれでも
あるんですか?



なにしろ
骨までボロボロに
溶けてしまう
らしいからね

そして
樹に吸いこまれた
動物の魂は
その樹の花に生まれ
変わるという言い伝えが
あるらしいんだ
ほう
面白い話ですね

実は 今日
君に来てもらったのは
この樹をモチーフに
した作品が
完成したんでね

ぜひ
君に見て
もらいたい
と思ってね

ウーン
色といい
構図といい
素晴らしい
出来ばえ
ですね

ぜひ私の画廊で扱わせてください
もちろんそのつもりで君に来てもらったんだ


それにしてもこの女性……
奥さまに似ていらっしゃいますね


絵の中の女は描き手の愛する女にどうしても似るというからね
ハハハ……こりゃまいりました


それに　あの植物は
多喜子のようじゃ
ないかね………
男から男へ
甘い匂いを
ふりまきながら
その男の養分を
吸い取り
成長していく


それに
まさしく
私は
死期の近い
動物だから
ね




あの人
私の浮気のこと
うすうす気付いて
いるらしいわ


君！
吉沢君
は!?


この暑いなかを
来てくれたんだ
なんにもないが
飲んでいって
くれたまえ
しかし
今日は車ですから


いいじゃないか
君は私の作品の
完成を祝って
くれないのかね
いや　そんな！
じゃ　少し……


ところで奥さまをお見かけしませんが……
どちらへ？


気晴らしにヨーロッパを二、三週間ブラリとまわってくると言って出ていったきりなんの音沙汰もないんだ
相変らず困った奴だ


ところで君は植物にも精神があることを知っているかね
えっ!?植物に心がですか！
そうだこれはある本で読んだことだがね

それを発見したのはニューヨーク市マンハッタン街にあるウソ発見機教習所の所長・クリーブバクスターという

ウソ発見機を作り上げるのに功績のあったれっきとした科学者なんだがね

一九六六年二月のある寒い日のこと……彼は自分の部屋にあったツタカズラに水をやろうとして

ツタカズラが水を吸い上げる水の上昇速度を応用して測定することを思いついたんだ……

そして実験した結果異様なことに気付いた……

ウソ発見器の示すグラフ曲線が人間感情反応曲線にそっくりだったわけだ

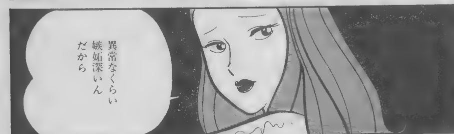
そして次に彼はツタカズラの鉢を火あぶりにしておどしたらどうだろうと

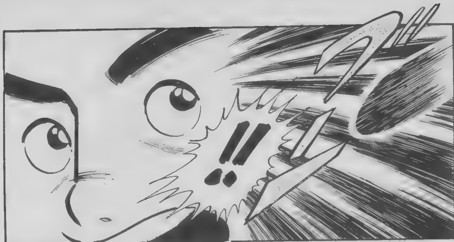
その光景を頭に思い浮べたところウソ発見器の針はにわかに激しく動き人間の恐怖心そっくりに大きくはね上ったということだ


本当ですか!?
僕にはとてもそんなことがあるなんて信じられないな
ハハハ本当さ


それにしても先生は植物のことにたいそう興味がおありなんですね
何と言っても植物は人間みたいに人を裏切ったりしないからね

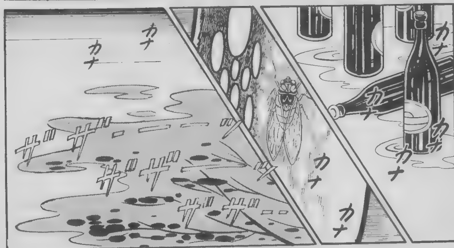

私は植物が好きだね


異常なくらい嫉妬深いんだから


!!


ブ〜〜…ン


ククク……
黄金虫だよ

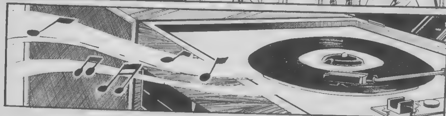

カナ
カナ
カナ
カナ
カナ
カナ
カナ
カナ
カナ
ザザーーーッ
ザザーーーッ
ザザーー


おや
いつのまにか
日が暮れて
きましたね
まあいいじゃないか
多喜子もいないんだし
遠慮せずに飲んでくれたまえ
酔いつぶれたら
泊っていけばいいんだし……


ガタ
ヒック
そうだ
あなたに
いいものを
聞かせて
あげよう


ビヴァルディの
「四季」だよ


なかなか
いい曲
だよ







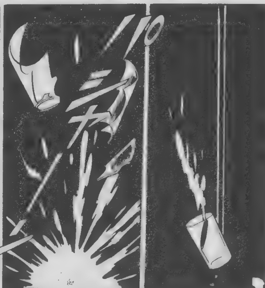


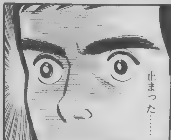

ユサ
ユサ


この曲は
多喜子が
好きな曲
でね

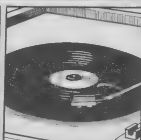

ウン？


少し
飲みすぎた
ようです




止まった……



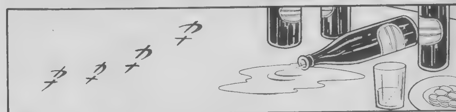



どうした
んだね
このぐらいの
酒で！
ヒック


これを
グイッと
あけたまえ
ヒック
さあ


そう
そう
ヒック
グイッ


ヒック
ああ ぁ
ヒック
なんだか
ひさしぶりに
いい気持に
なってきた

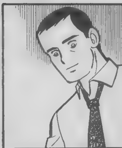

カナ
カナ
カナ
カナ

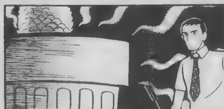

カナ
グ〜
グ〜
グ〜


先生！
風邪を
ひきますよ
先生！
グ〜


カナ
カナ
カナ


グ









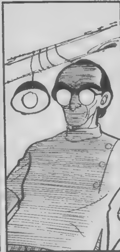


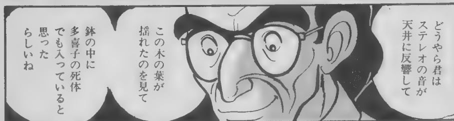



ザク!!
ザク!!
ザク
ザク
クラ・・
ど
どうしたんだ?
か
からだが……




やはり
君だった
のか
多喜子の
浮気相手は



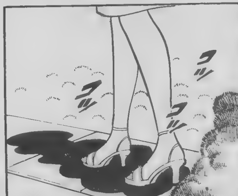

どうやら君は
ステレオの音が
天井に反響して
この木の葉が
揺れたのを見て
鉢の中に
多喜子の死体
でも入っていると
思った
らしいね


ククク……
君の飲んだコップには
ちょっと薬が
入っていた
のでね
ウ
ウ〜ン





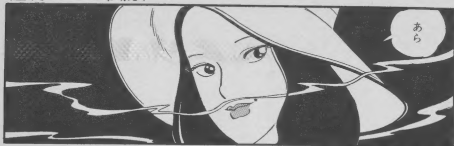



コツ
コツ
コツ


ガチャ


おや
お帰り！


どうだい 旅行は楽しかったかい
ええ
とっても




とても
きれいな花が
咲いたのね

植物のある風景／完

# ◆石原はるひこ二つの世界

## 「悲劇と喜劇」

坂口　尚

作品というのは、その作者の人生の歩調と密接なものが、あります。世界から汲み上げたものを、意識しょうとしまいと、抽出捨象し、手品師よろしく白紙の上に、花を咲かせ、血を降らせ、夜空に星を燈すごとく。時に瞬時に手捌き、時に長の醸造年月の果てに、漸く香り放つ場合もあります。

この刊に収められた十編は、いわば、そのとりどりの石原はるひこ氏のデビューより十余年の大まかな軌跡です。こうして、一冊にまとめられたものを新たに拝読すると、さながら、麦芽を糖化、発酵させ、ウイスキー（作品）の原料となるモルトに、種々の香料で風味の匙加減を自在に操る達者な職人を思わせます。怪奇あり、幻想あり、ユーモアあり、そして、「にわか雨」の作風の延長に既刊の「青春悶々族」が、醸造されたものだと思います。

「青春――」が、青春期における外との関りあいを、感傷の中にも、カラリとしたユーモアを持った作品であるのに対比して、本収録作品は、内面へ意識が向いているスタティックなものです。「にわとり」「無機質同盟」は、組織の中の個としての身の置きどころ、生の充実感とは?そして充実する為の模索。作者自身の当時の生活感からの意識投影で直截な心情が、表われている作品だと氏自身述べています。

「青春――」と本収録作品、いうなれば陽と陰、そのどちらも青春期の大なり小なり、思想のエレメントです。そして、「青春――」が、より最近作である。ことに関して、独断的私見ながら、その脱稿時においては、ほんの少し、青春を距離をもって、みつめ、ほろ苦さと共にほほ笑みのゆとりを持って描いたのではないかと思われます。

「にわか雨」の風味が、「青春――」へ。「にわとり」「無機質同盟」「赤い柿」等が、寓意風仕立ての「モコモコ山」シリーズへ発展していく中で、一読者として、欲深に望み期待するのは、後者に属する風味も、これから時々味あわせてほしいと思う事です。

その力強くも軽快なタッチ、巧みな構成力と、人間観察の細やかさ、軽妙洒脱、増々磨きのかかった醸造人。

次なる作品集を、早くも心待ちしています。



## 作者紹介
## 石原はるひこ

昭和20年4月4日大阪に生まれる。
昭和43年、日の丸文庫雑誌「ごん」の
表紙をてがけ、それを契機に
同誌よりデビュー。
昭和44年、少年サンデーにて
「赤い柿」「海猫の城」「悪魔の
招待席」などを発表。
以後、悲劇、喜劇など多数の
ジャンルを手がけ現在に至る。


# 海猫の城

別冊エースファイブコミックス〈46〉

著者© 石原はるひこ
発行者 滝澤七五三
発行所 オハヨー出版株式会社
東京都武蔵野市八幡町1-6-2
郵便番号180
電話 0422(54)0840
印刷所 松本印刷株式会社
製本所 株式会社宮本製本所